

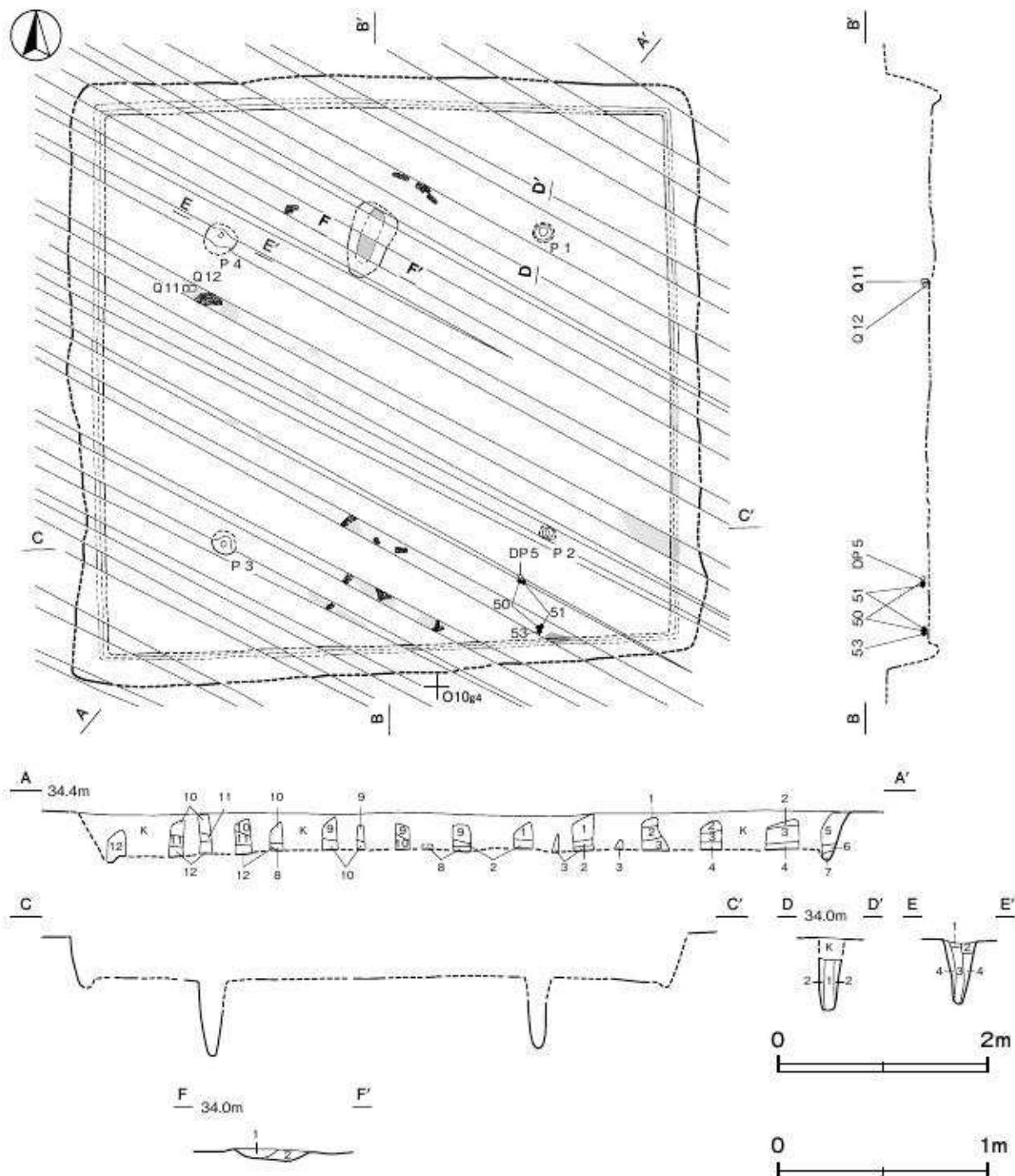
第32図 第14号堅穴建物跡実測図

### 第15号竪穴建物跡（第33・34図 PL 5）

**位置** 調査区西部のO10f3区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸5.92m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ38~42cmで、ほぼ直立している。搅乱で8割が壊されている。

**床** 平坦だが、搅乱のため不明な部分が多い。壁溝は全周すると考えられる。床面で、焼土及び炭化材を部分的に確認した。



第33図 第15号竪穴建物跡実測図

**炉** 北壁寄りのP 1とP 4の間に位置している。長径70cm、短径41cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床を掘りくぼめて構築されており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 2 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

**ピット** 4か所。P 1～P 4は径14～29cm、深さ57～70cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P 1・P 4は柱痕跡と推測される。

#### ピット土層解説 (P 1)

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

#### ピット土層解説 (P 4)

1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量  
2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量  
3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

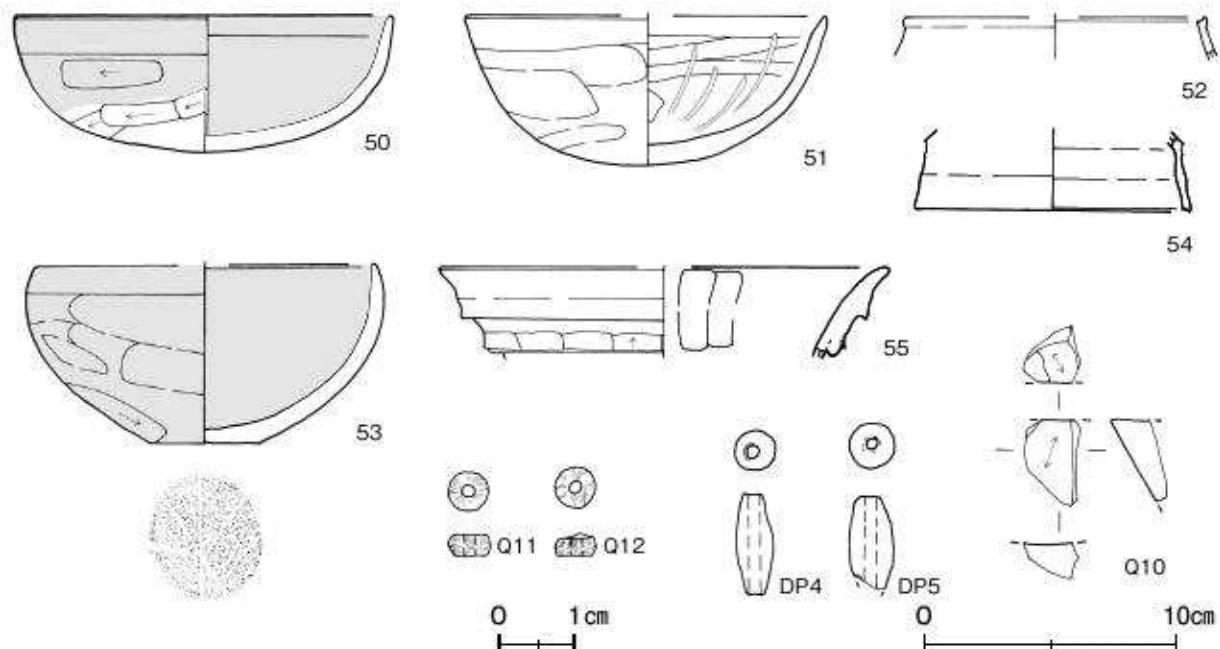
**覆土** 12層に分層できる。搅乱で不明な部分が多いが、堆積状況は埋め戻していると推測される。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量	8 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量
3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量	11 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色 ロームブロック中量	12 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量

**遺物出土状況** 土師器片245点（壺22、椀1、壺1、高壺1、甕類220）、須恵器片4点（壺身1、壺蓋1、甕類2）、土製品2点（管状土錘）、石器1点（砥石）、石製品2点（白玉）のほか、弥生土器片1点（広口壺）、陶器片1点（碗）、磁器片2点（碗）、鐵製品1点（不明）が、南東側の覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。50・51・53、DP 5は、南壁際の覆土下層からほどまつて出土している。Q11・Q12は、北西部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面から炭化材及び焼土が検出されたことから、焼失建物である。



第34図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備考
50	土師器	壺	14.9	5.5	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り	覆土下層	90% PL28
51	土師器	壺	[14.1]	5.9	—	長石・石英・黒色粒子・鐵鏽	にぶい黄橙	普通	外面横位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ後縦位のヘラ磨き	覆土下層	60% PL28
52	須恵器	壺身	[11.8]	(1.8)	—	長石・石英	黄灰	普通	外・内面クロナデ	覆土中	5% 東海産 45と同一の可能性
53	土師器	壺	[13.4]	7.1	4.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	90% PL30
54	須恵器	壺蓋	[10.9]	(3.1)	—	長石・石英・鐵鏽	灰	普通	外・内面クロナデ	覆土中	5% 東海産
55	土師器	甌	[18.0]	(3.5)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面縦位のヘラ削り後横位のヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	管状土錐	1.7	4.0	0.5	8.50	長石・石英・針状鉱物	黒褐	ナデ後磨き 一方向からの穿孔	覆土中	PL37
DP 5	管状土錐	1.8	(3.7)	0.4	(10.63)	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	黒	ナデ後磨き 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	砥石	(3.4)	(2.2)	(2.3)	(12.17)	砂岩	研磨面 2面	覆土中	
Q 11	臼玉	0.55	0.5	0.3	0.13	滑石	全面研磨加工 中央に棱を有する 一方から穿孔 孔径 0.15cm	床面	PL39
Q 12	臼玉	0.55	0.55	0.3	0.13	滑石	全面研磨加工 中央に棱を有する 一方から穿孔 孔径 0.15cm	床面	PL39

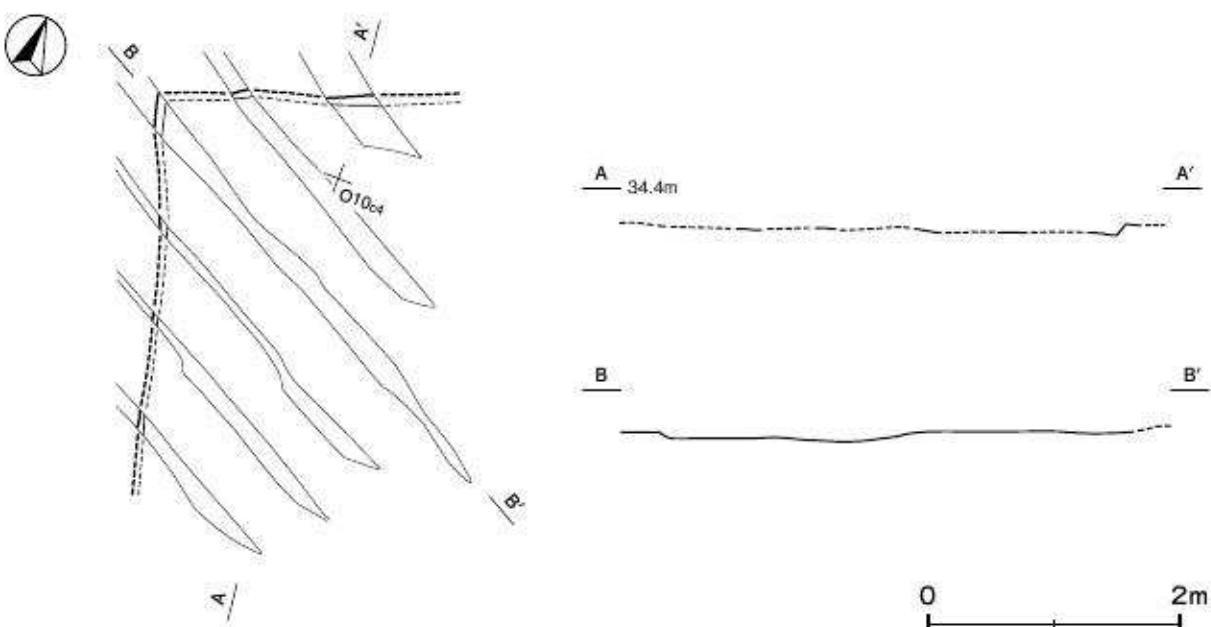
第 16 号竪穴建物跡（第 35・36 図）

位置 調査区西部の O10c3 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 大部分が搅乱を受けているため、確認できた南北軸は 2.65 m、東西軸は 1.70 m で、推定主軸方向は N - 18° - W である。壁は高さ 4 ~ 9 cm で、外傾している。

床 平坦だが、搅乱のため不明な部分が多い。

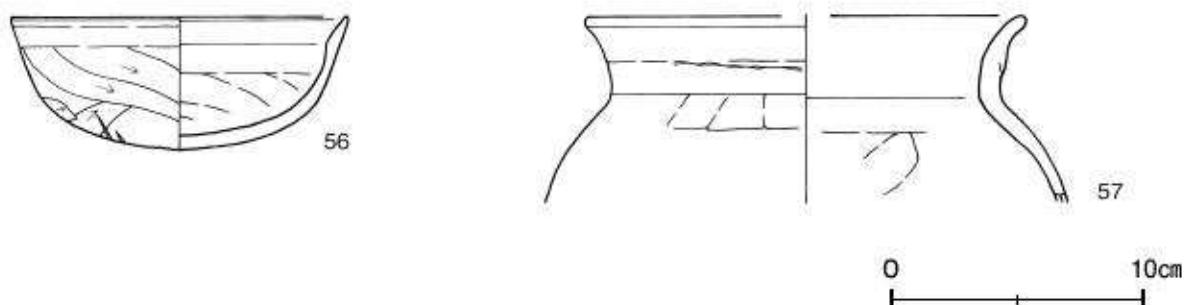
覆土 搅乱のため、覆土は確認することができなかった。



第 35 図 第 16 号竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 13 点（壺 2、甕類 11）が出土している。すべて覆土中からの出土である。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



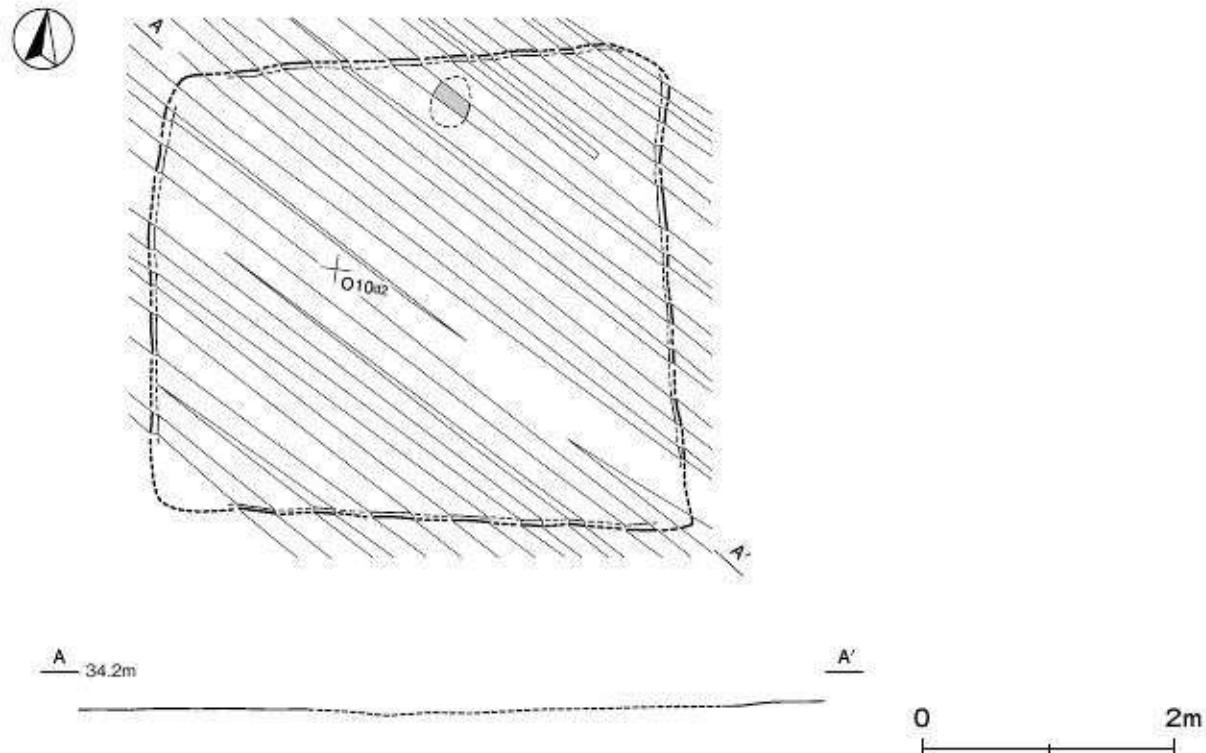
第 36 図 第 16 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 36 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土状況	備 考
56	土師器	壺	13.3	5.2	—	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中	80% PL28
57	土師器	甕	[17.4]	(7.3)	—	長石・赤色粒子	橙	普通	外面縁位のヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中	10%

第 17 号竪穴建物跡（第 37・38 図）

**位置** 調査区西部の O10c2 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 37 図 第 17 号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 大部分を搅乱により壊されているため、東西軸は4.11m、南北軸は3.70mの長方形と考えられる。推定主軸方向はN-6°-Wである。

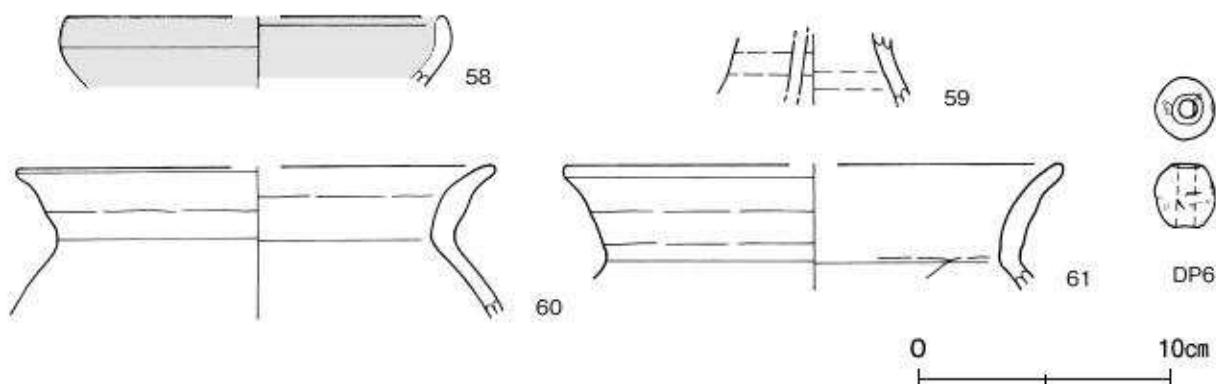
**床** 平坦だが、搅乱のため不明な部分が多い。

**炉** 北壁際に位置するが、詳細は不明である。

**覆土** 搅乱のため、覆土は確認することができなかった。

**遺物出土状況** 土師器片39点（坏1、甕類38）、須恵器片1点（高坏）、土製品1点（土玉）が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第38図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
58	土師器	坏	[14.8]	(28)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中	10%
59	須恵器	高坏	-	(29)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外・内面クロロナデ 脚部透かし孔残存	覆土中	5% 陶邑産
60	土師器	甕	[18.6]	(6.0)	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中	5%
61	土師器	甕	[19.6]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	種	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 6	土玉	25	2.5	0.8	13.35	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

### 第18号竪穴建物跡（第39・40図）

**位置** 調査区西部のO9e0区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 大部分が搅乱を受けているため、東コーナー部及び炉・ピットの下部しか確認できなかった。一辺5.50mほどの方形と推測され、主軸方向はN-22°-Wである。確認できた壁は高さ43～47cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦である。壁下には、幅12～18cmで、深さ6～8cmの壁溝が全周していると考えられる。

**炉** 北壁側寄りに位置している。径50cmほどの不整円形で、深さ20cmの地床炉である。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。

#### 炉土層解説

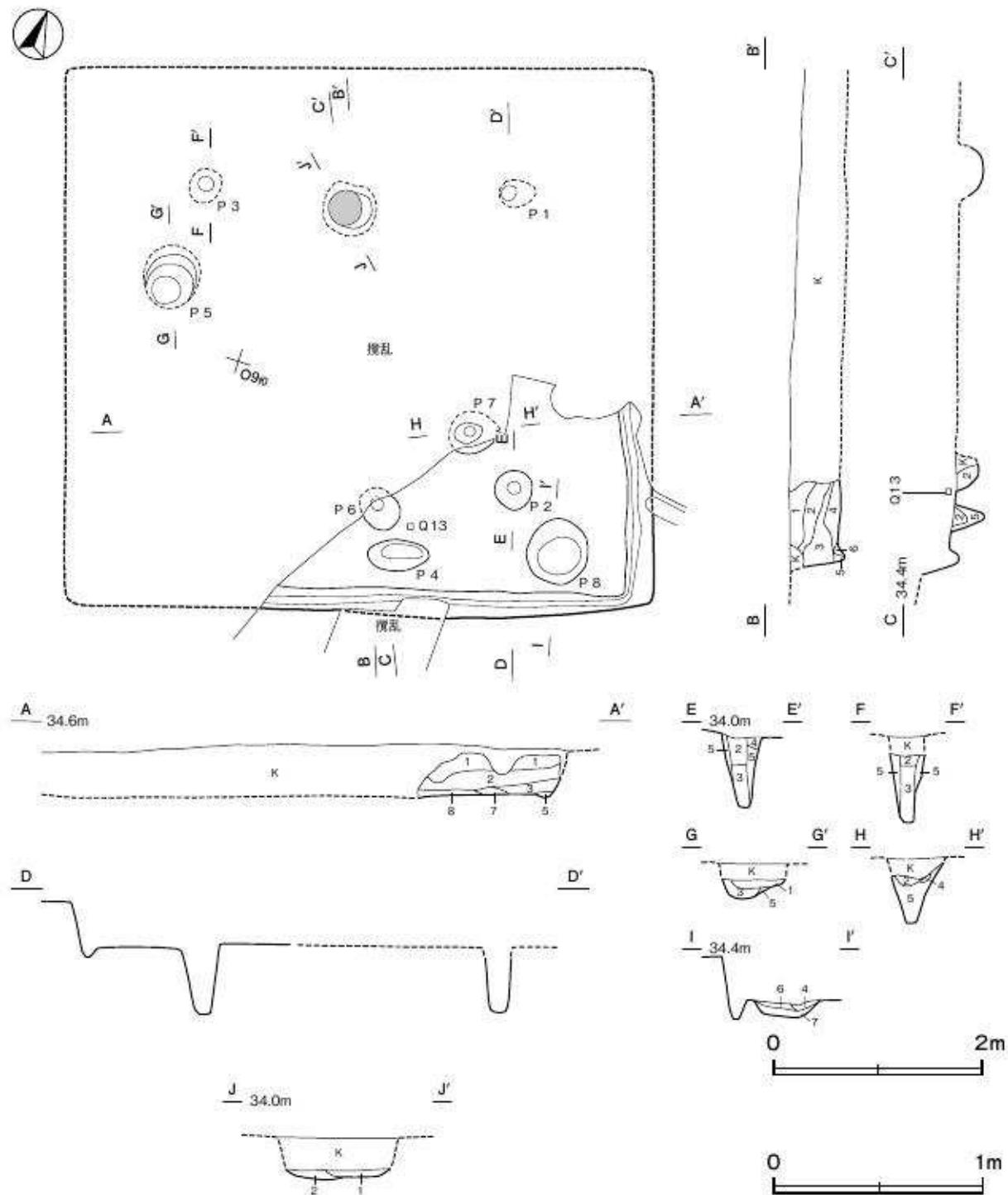
1 暗赤褐色 烧土粒子多量、ローム粒子微量

2 暗赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子少量

**ピット** 8か所。P 1～P 3は径26～37cm、深さ60～80cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P 2・P 3は柱痕跡であると推測される。P 4は、長径59cm、深さ30cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 5～P 8は、性格不明である。

**ピット土層解説 (P 2～P 8共通)**

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量	5 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量	6 暗 褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量	7 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量	



第39図 第18号竪穴建物跡実測図

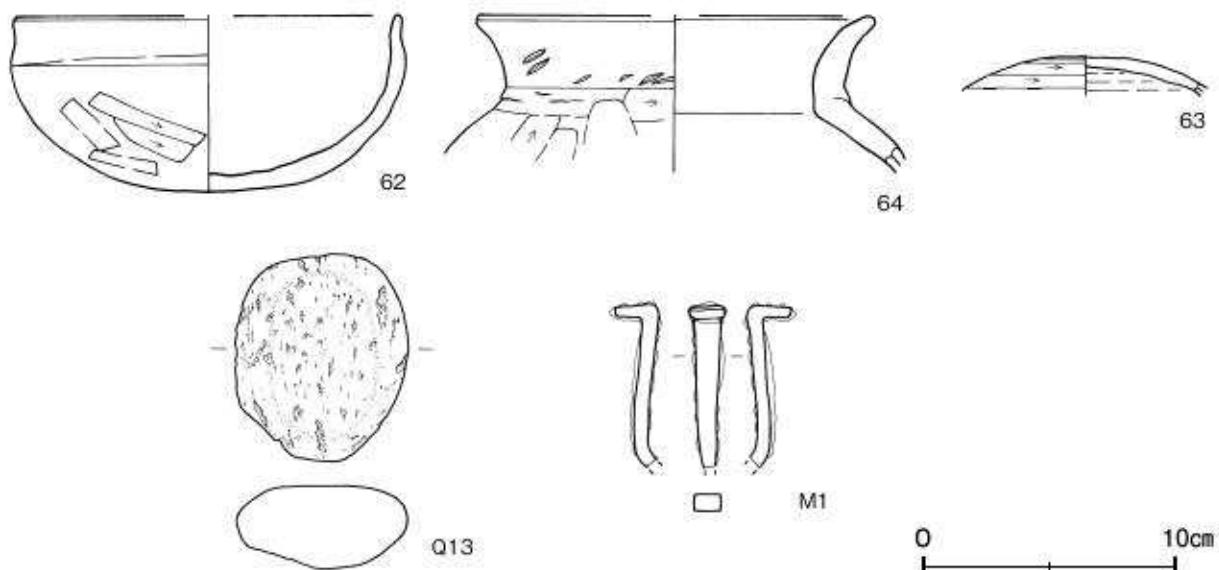
**覆土** 8層に分層できる。確認できた部分では、ロームブロックが含まれ、不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	6 褐色 ローム粒子多量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 181 点（坏 37、高坏 5、甕類 139）、須恵器片 2 点（坏蓋、甕類）、石器 1 点（軽石）、鉄製品 1 点（釘カ）のほか、磁器片 1 点（碗）が出土している。Q13 は覆土下層からの出土で、埋め戻す過程で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀末葉と考えられる。



第 40 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師器	坏	[15.4]	7.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ	覆土中	70%
63	須恵器	坏蓋	-	(1.6)	-	長石・繊維	黄灰	普通	外面回転ヘラ削り 内面クロナデ	覆土中	5% 東海道
64	土師器	甕	[15.3]	(6.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面継続のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q.13	軽石	8.2	6.9	3.4	30.31	軽石	浮子カ	覆土下層	PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M.1	釘カ	(6.7)	1.6	2.05	(17.89)	鉄	上端部 L 字状 下端部変形 欠損	覆土中	PL41

第 19 号竪穴建物跡（第 41・42 図 PL 5）

**位置** 調査区西部の O9b0 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 西コーナー部が調査区域外に延びている。長軸 4.45 m、短軸 4.38 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁は高さ 40cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には、幅 12 ~ 14cm、深さ 7 ~ 9cm の壁溝が、南コーナー部を除いて巡っている。

**炉** 北西壁寄りに位置している。長径 40cm、短径 31cm の不整梢円形で、深さ 4cm の地床炉である。炉床は掘りくぼめて構築されており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

**ピット** 5か所。P 1 ~ P 4 は、径 16 ~ 30cm、深さ 51 ~ 62cm で、規模や配置から主柱穴である。P 5 は、位置や規模から出入口施設に伴うピットと考えられる。

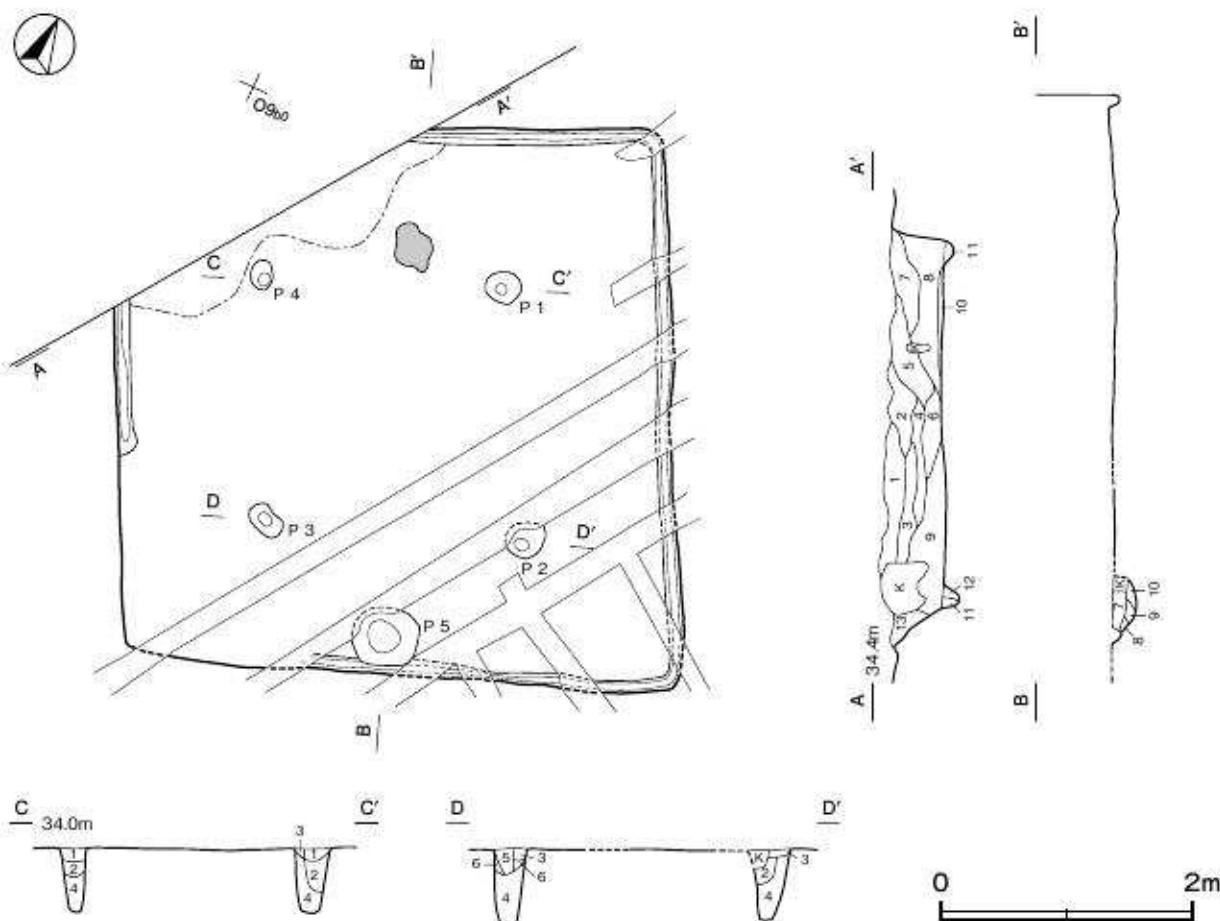
#### ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量	6 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物微量	7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 褐色 ロームブロック多量	8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子多量	9 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	10 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

**覆土** 13 層に分層できる。ブロック状の不規則な堆積状況であることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	12 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	13 黒褐色 ロームブロック少量
7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量	



第41図 第19号竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片3点（环1, 齐類2）が出土している。すべて覆土中からの出土で、65は残存率が高いことから、埋め戻す過程で投棄された可能性がある。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第42図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
65	土師器	環	-	(42)	40	長石・赤色粒子	赤褐色	普通	外面ヘラナメ	覆土中	60%

## 第20号竪穴建物跡（第43～45図 PL 6）

**位置** 調査区西部のQ9h6区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北西コーナー部が調査区域外へ延び、中央部から北東コーナー部にかけて搅乱を受けている。長軸7.30m、短軸7.26mの方形で、主軸方向はN-10°-Wと推測される。壁は高さ34～46cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10～13cmの壁溝があり、搅乱で壊されている部分もあるが、全周していたと考えられる。

**ピット** 5か所。P1～P4は径23～32cm、深さ76～98cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡であると推測される。P5は、径43cm、深さ32cmで、形状や位置から出入口施設に伴うピットである。

### ピット土層解説（P1）

1 暗褐色 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 2 褐色 色 ロームブロック多量

### ピット土層解説（P2）

1 暗褐色 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 2 褐色 色 ローム粒子多量

### ピット土層解説（P3）

1 黒褐色 色 ローム粒子少量 3 褐色 色 ロームブロック少量  
2 褐色 色 ロームブロック中量

### ピット土層解説（P4）

1 黒褐色 色 ローム粒子・炭化粒子少量 2 褐色 色 ローム粒子多量

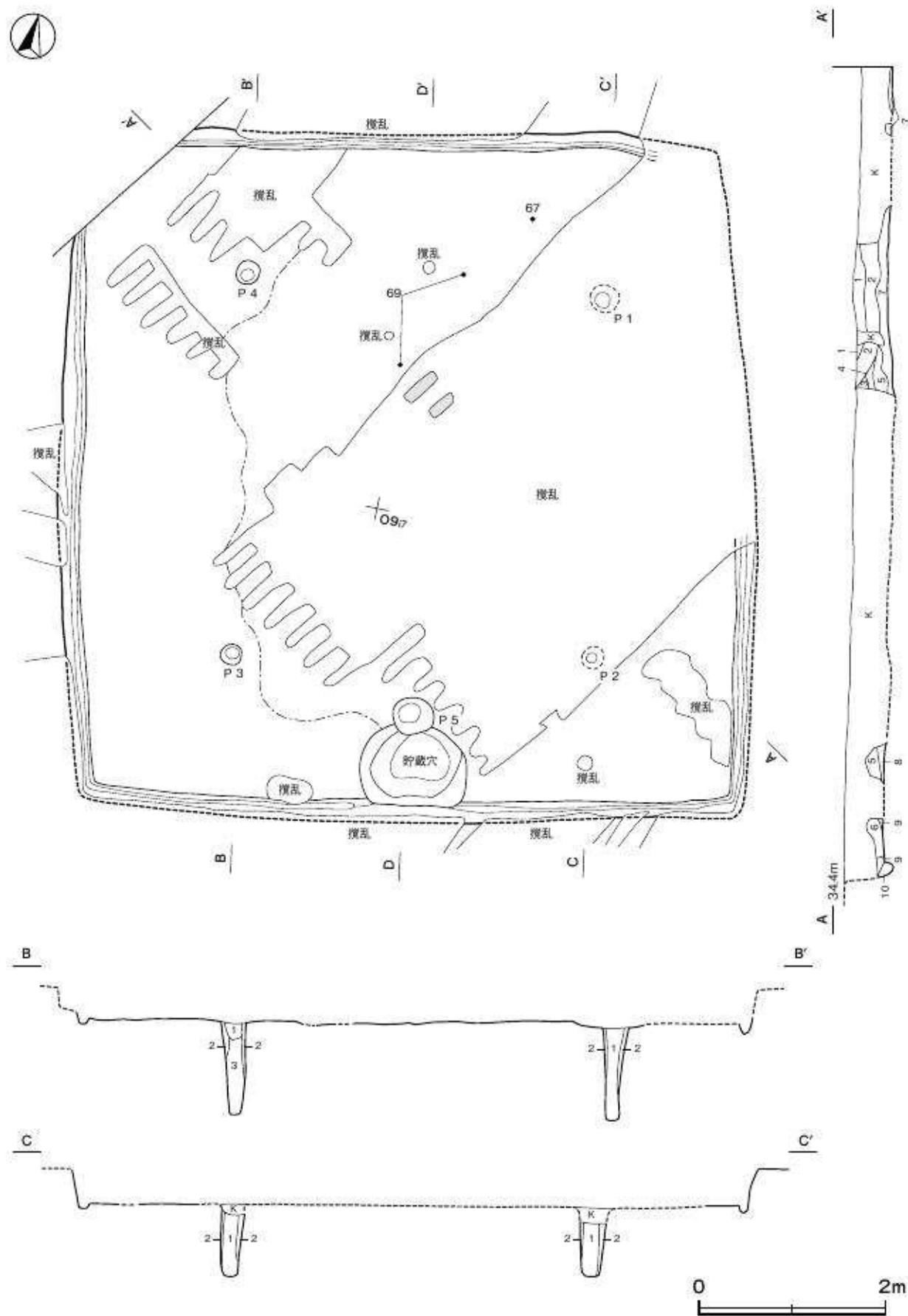
### ピット土層解説（P5）

1 暗褐色 色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 3 褐色 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量  
2 暗褐色 色 ロームブロック・炭化粒子中量

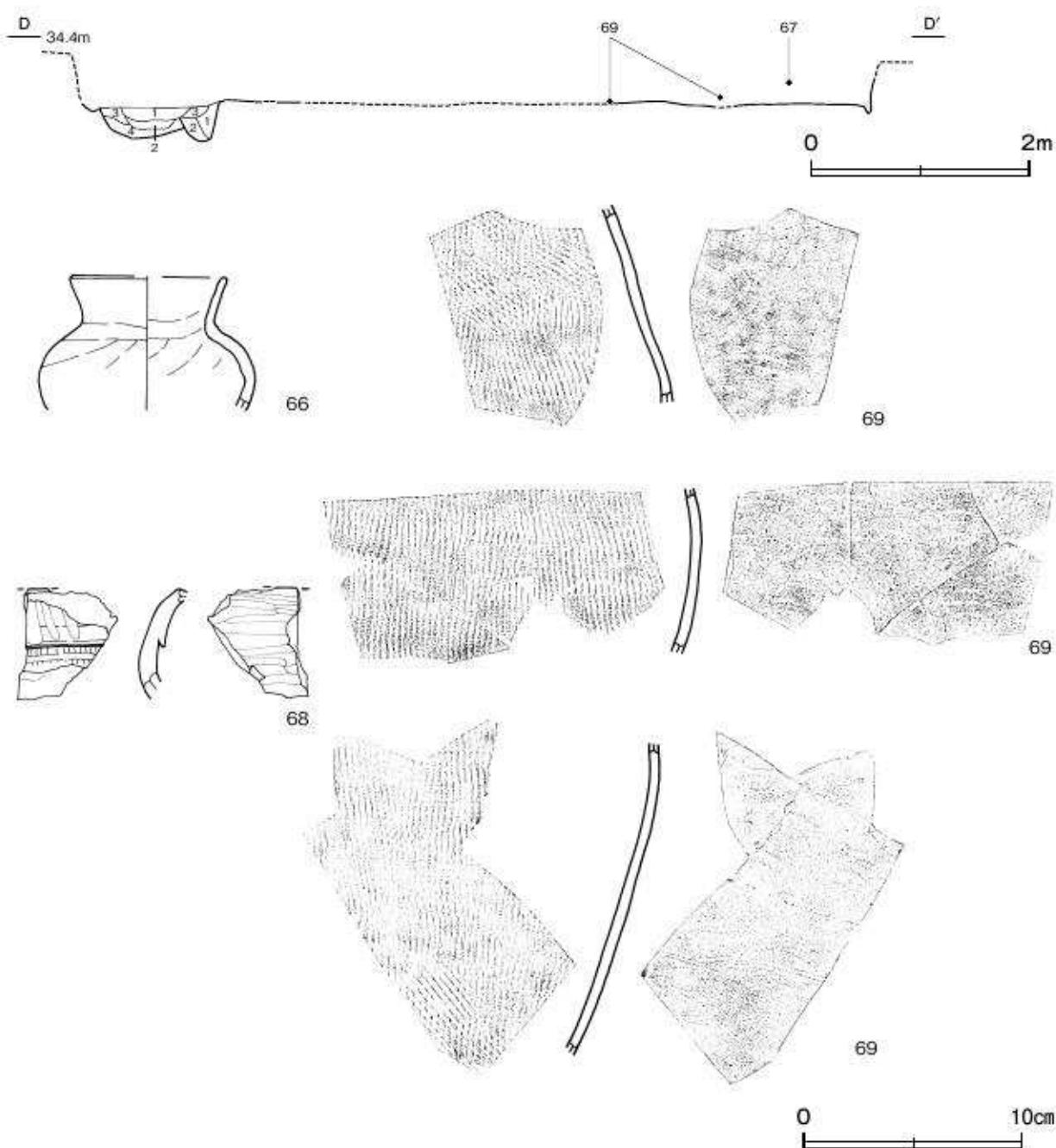
**貯蔵穴** 南壁際の中央部に位置する。長径115cm、短径75cmの楕円形で、深さ29cmである。底面は、南側に傾斜しており、壁はほぼ直立している。

### 貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 3 褐色 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量  
2 暗褐色 色 ロームブロック・炭化粒子中量 4 褐色 色 ロームブロック多量



第43図 第20号竪穴建物跡実測図



第44図 第20号竪穴建物跡・出土遺物実測図

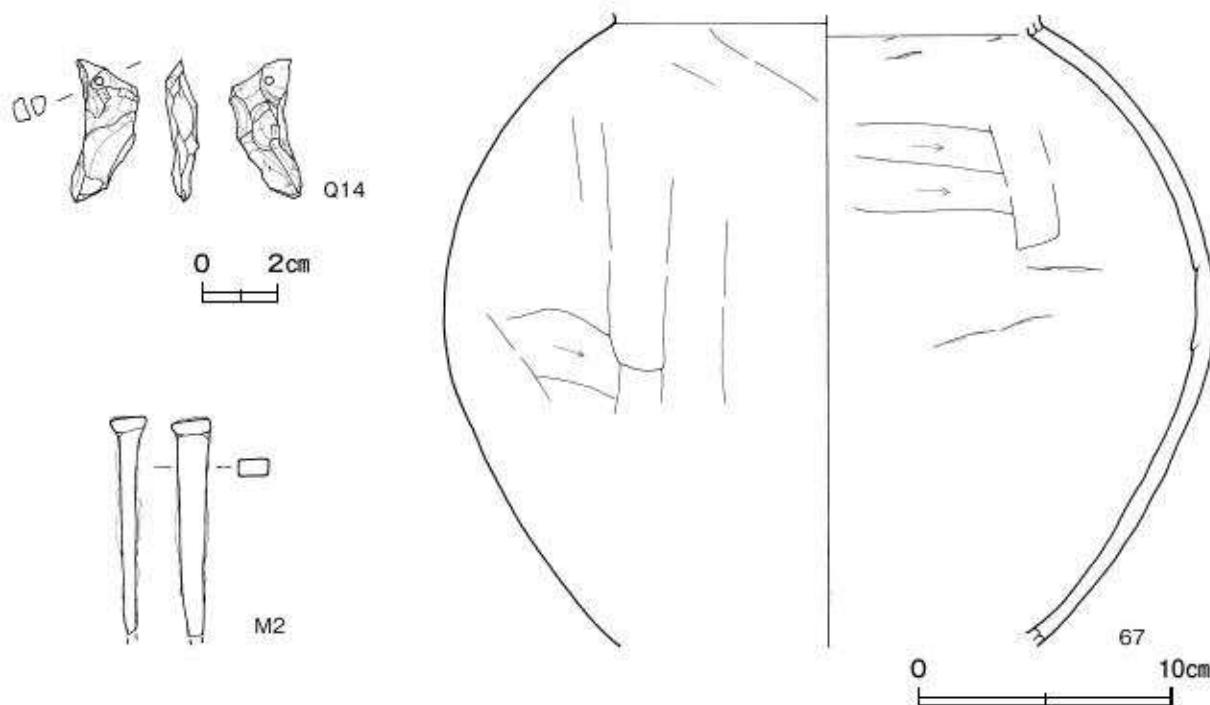
**覆土** 10層に分層できる。搅乱で壊されており、堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 黒褐 色 ローム粒子少量	6 暗褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐 色 ローム粒子少量	7 暗褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
3 暗褐 色 ロームブロック少量	8 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
4 暗褐 色 ローム粒子少量	9 極暗褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
5 暗褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 168点（壺31、壺1、高壺1、甕類135）、須恵器片 1点（甕）、石製品 1点（未製品）、鉄製品 1点（釘カ）のほか、縄文土器片 8点（深鉢）、土師質土器片 1点（擂鉢）が出土している。67は、覆土中層から出土している。69は、覆土下層のやや離れた位置で出土したものが接合した。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第45図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表（第44・45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
66	土師器	壺	[7.2]	(6.1)	—	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外・内面ヘラナデ	覆土中	10%
67	土師器	甕	—	(24.9)	—	長石・石英・墨厚・赤色粒子	橙	普通	外・内面ヘラ削り後ヘラナデ	覆土中層	20%
68	土師器	甕	—	(5.0)	—	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	覆土中	5%
69	須恵器	甕	—	—	—	長石・石英	灰	良好	体部外面報位及び斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	15% 東山窯跡

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	未製品	3.7	1.85	0.9	4.22	滑石	穿孔1か所 一方向からの穿孔、複数模造品もしくは勾土の未製品 孔径0.2cm	覆土中	PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	釘カ	(8.2)	1.5	1.6	(20.27)	鉄	下端部欠損	覆土中	PL41

第21号竪穴建物跡（第46・47図 PL 6）

位置 調査区西部のP9b5区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.97m、短軸6.00mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ47~66cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅13~20cm、深さ7cmの壁溝がほぼ全周している。間仕切り溝は、長さ85~120cm、深さ7~10cmのものが6条ある。うち5条は、P1、P3、P4、P7に向かって延び、残りの1条は、西壁からP3に延びる溝と平行している。焼土及び炭化材が、床面全体に散っている。

**炉** 中央に2か所。炉1は長径68cm、短径48cmの不整楕円形で、深さ3cmの地床炉である。炉2は長径97cm、短径56cmの不整楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉1は炉2に掘り込まれている。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

**ピット** 8か所。P1～P4は径23～31cm、深さ81～86cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P1・P2・P4は柱痕跡であると推測される。P5は径23cm、深さ51cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。P6～P8は、径25～32cm、深さ13～62cmで、補助柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説 (P1)

1 暗褐色 ロームブロック少量 2 褐色 ローム粒子多量

#### ピット土層解説 (P2)

1 黑褐色 ロームブロック・炭化物少量 2 褐色 ロームブロック中量

#### ピット土層解説 (P3)

1 黑褐色 ロームブロック中量 2 褐色 ローム粒子中量

#### ピット土層解説 (P4)

1 極暗褐色 ローム粒子中量 2 褐色 ロームブロック中量

#### ピット土層解説 (P6)

1 暗褐色 ロームブロック多量 3 褐色 ローム粒子多量  
2 褐色 ロームブロック多量

#### ピット土層解説 (P7)

1 褐色 ロームブロック・炭化物少量 2 褐色 ローム粒子中量

**貯蔵穴** 南壁際中央部に位置している。長径169cm、短径82cmの楕円形である。深さは30cmで、壁は外傾している。

#### 貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック多量 2 暗褐色 ロームブロック多量

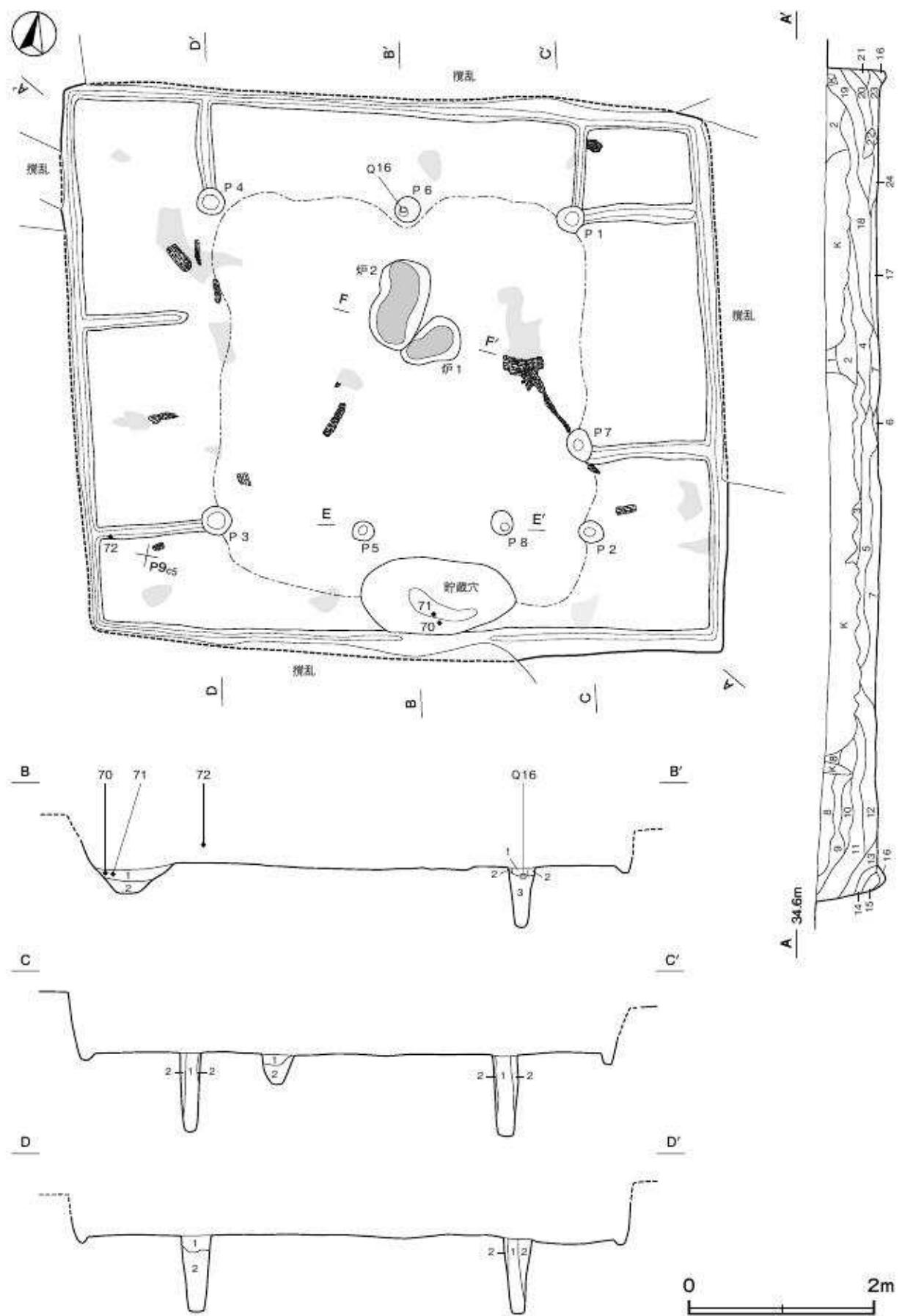
**覆土** 24層に分層できる。ブロック状に堆積しており、ロームブロックや焼土、炭化材が多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

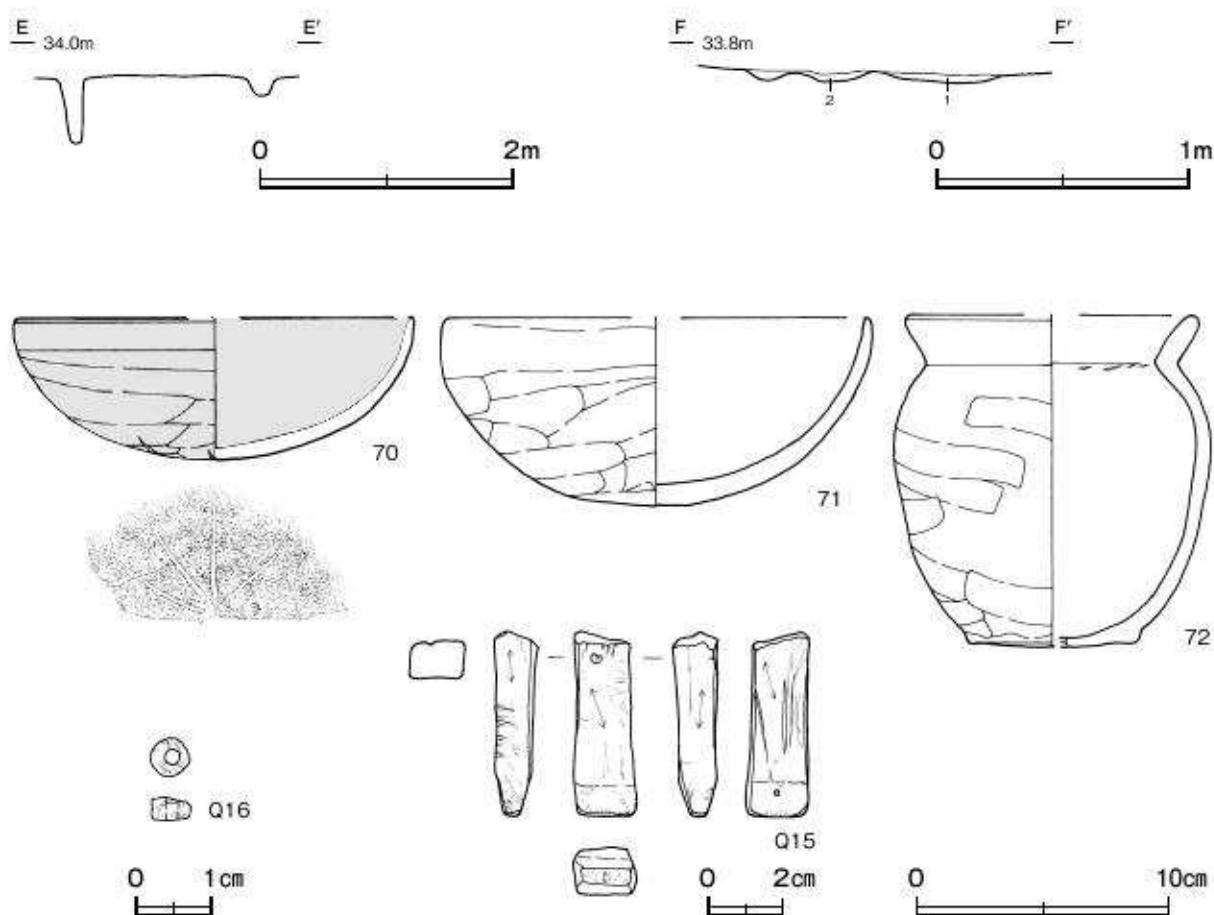
1 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	14 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量	15 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量	16 暗褐色 ローム粒子中量
5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量	17 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量
6 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量	18 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量
7 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	19 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	20 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量
9 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量	21 褐色 ローム粒子多量
10 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック微量	22 黑褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、ロームブロック少量
11 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	23 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
12 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量	24 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片170点(坏44、高坏1、甕類124、小形甕1)、石器1点(砥石)、石製品1点(臼玉)が出土している。72は、西壁際の覆土中層から出土している。70・71は、貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。Q16は、P6の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第46図 第21号豎穴建物跡実測図



第47図 第21号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第21号竪穴建物跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	壺	[15.6]	5.6	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面横帯のヘラナデ 底部放射状の線刻	竪穴覆土上層	30% PL28
71	土師器	壺	[16.8]	7.4	—	長石・石英・赤色鉄子・磁鐵	赤	普通	外面横帯のヘラナデ	竪穴覆土上層	70% PL28
72	土師器	小形甌	[11.2]	13.1	[6.4]	長石・石英・磁鐵	にぶい黄褐	普通	外面横帯のヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中層	30% PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 15	砥石	49	1.7	1.2	14.97	砂岩	穿孔中途の痕跡が2か所	覆土中	PL38
Q 16	臼玉	0.55	0.55	0.3	0.12	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方から穿孔 孔径0.2cm	P-6 覆土上層	PL39

第22号竪穴建物跡（第48～50図 PL 6・7）

位置 調査区北西部のP9b8区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4・5号溝に掘り込まれている。

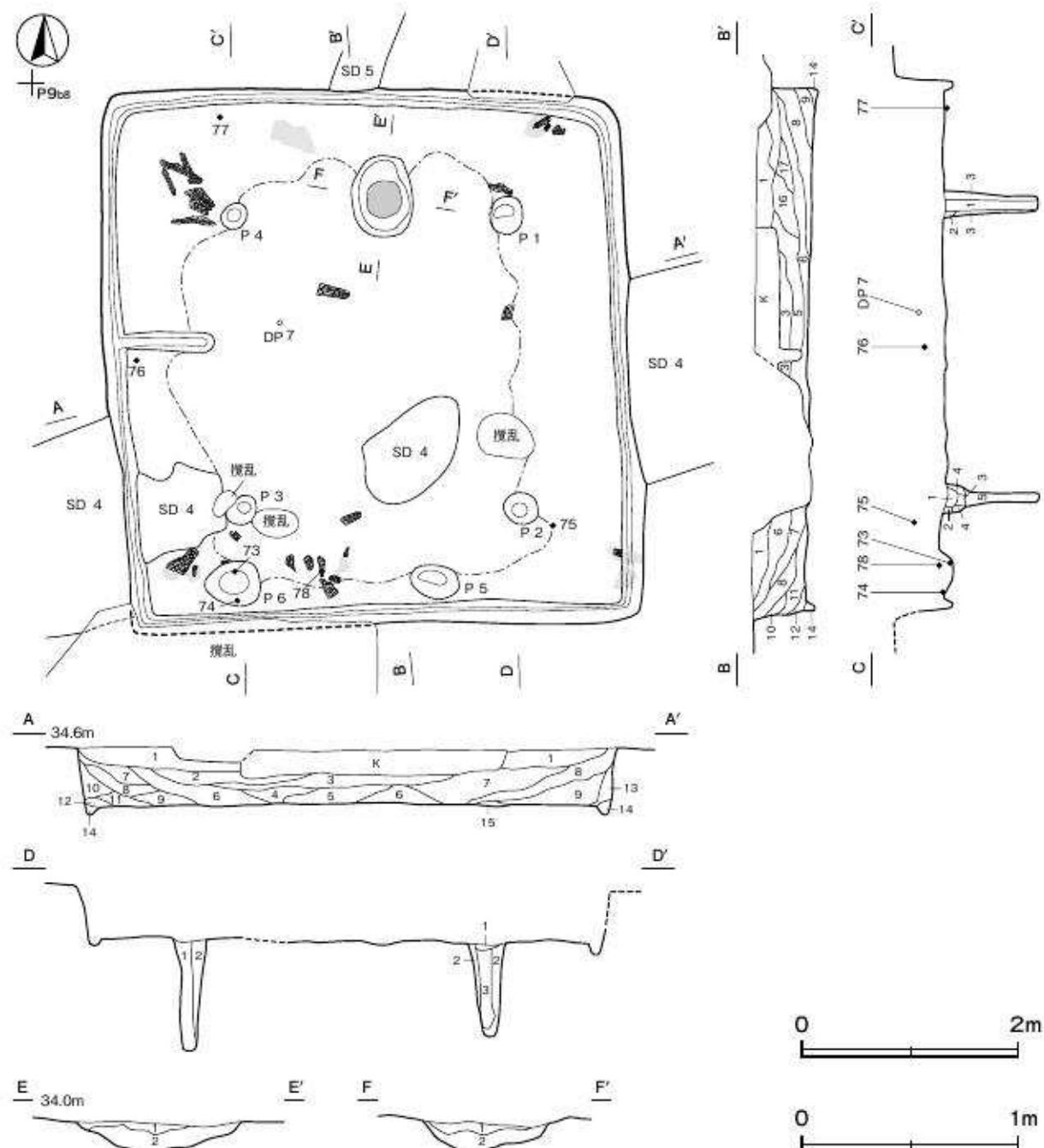
規模と形状 一辺が4.85mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁は高さ46～50cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅7~15cm、深さ8cmの壁溝が全周している。間仕切り溝が1条あり、長さ82cm、幅17cmで、西壁から中央に向かってまっすぐ伸びている。床面から、炭化材や焼土が出土し、西壁寄りのコーナー部に集中して散っている。

**炉** 北壁寄りの、P.1とP.4の間に位置している。長径75cm、短径56cmの楕円形で、深さ14cmの地床炉である。

#### 炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子中量      2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量



第48図 第22号竪穴建物跡実測図

**ピット** 6か所。P 1～P 4は、径23～37cm、深さ83～101cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、P 1・P 2・P 4は柱痕跡であると推測される。P 5・P 6は、径31～50cm、深さ10・12cmで性格は不明であるが、P 6は底面から完形に近い土器が出土している事から、貯蔵穴の可能性がある。

**ピット土層解説 (P 1)**

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒 暗 色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 3 暗 暗 色 炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量        |                          |

**ピット土層解説 (P 2)**

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒 暗 色 炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 2 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子中量 |
|----------------------------|----------------------|

**ピット土層解説 (P 3)**

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 黒 暗 色 ローム粒子・炭化粒子中量  | 4 褐 色 ローム粒子多量           |
| 2 褐 色 ロームブロック多量       | 5 黒 暗 色 ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 3 黒 暗 色 ローム粒子中量、炭化物少量 |                         |

**ピット土層解説 (P 4)**

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒 暗 色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 | 3 褐 色 ロームブロック多量 |
| 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |                 |

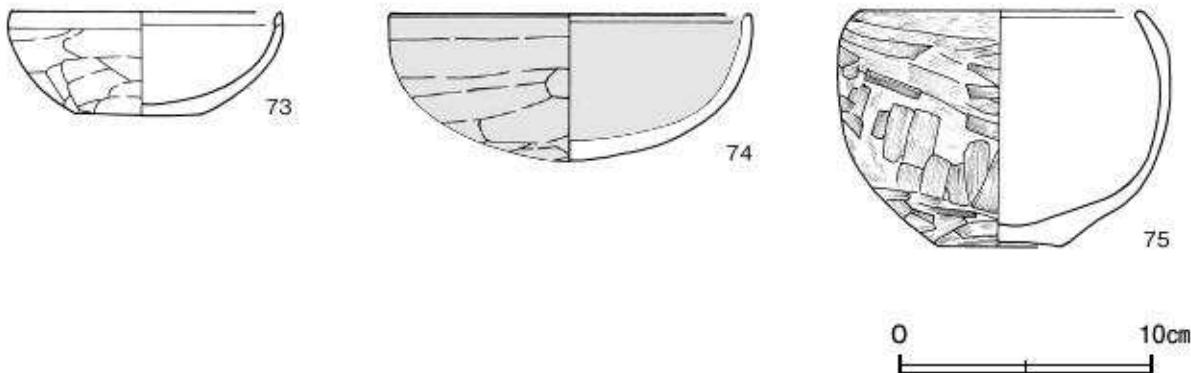
**覆土** 17層に分層できる。ブロック状の不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

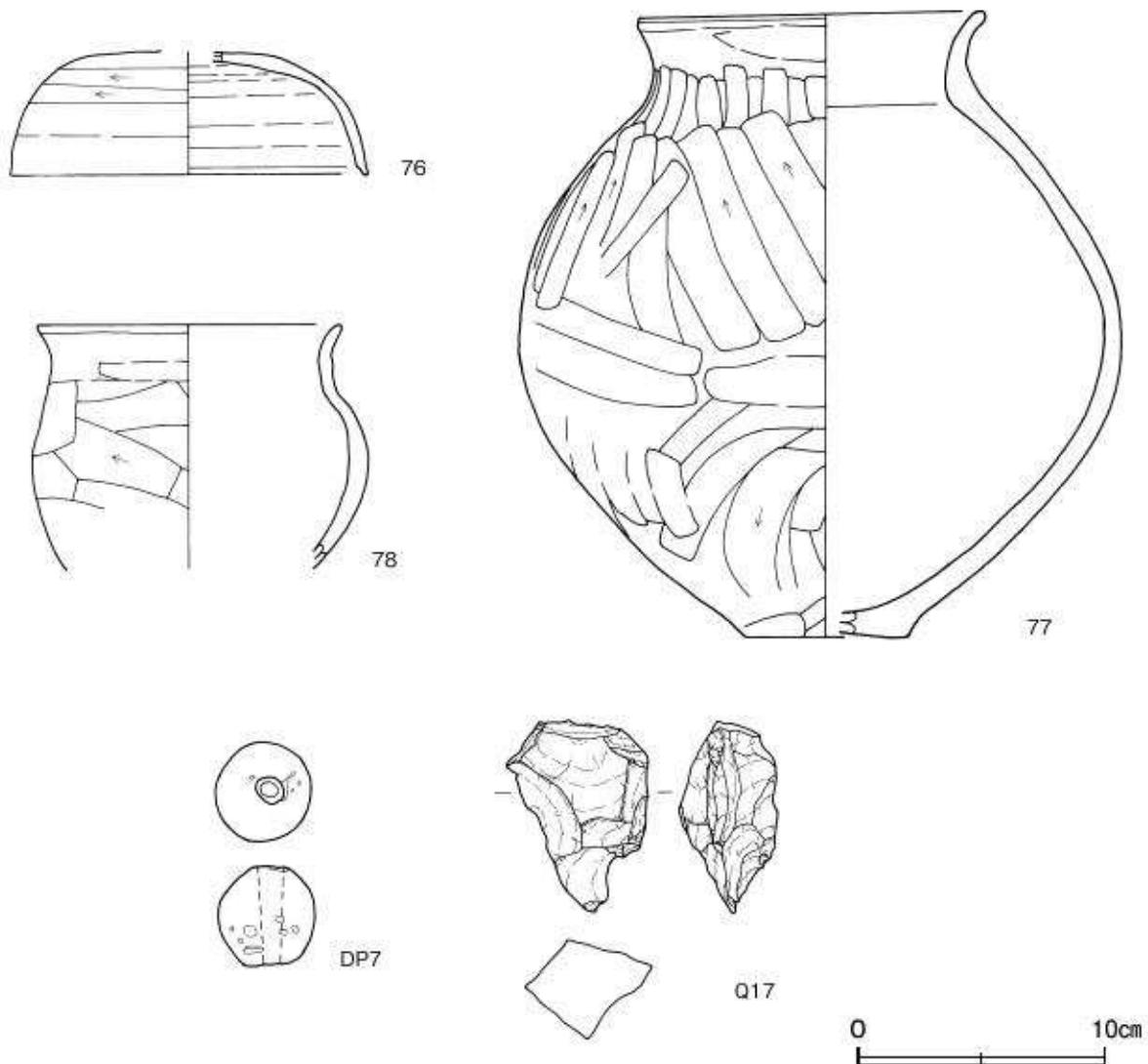
- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 暗 色 ローム粒子少量、炭化物微量         | 10 暗 暗 色 ロームブロック多量              |
| 2 暗 暗 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量      | 11 暗 暗 色 ローム粒子中量、炭化物微量          |
| 3 暗 暗 色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量    | 12 暗 暗 色 ローム粒子多量                |
| 4 暗 暗 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量      | 13 暗 暗 色 ローム粒子多量、炭化物中量          |
| 5 暗 暗 色 ロームブロック中量、炭化物微量       | 14 暗 暗 色 ローム粒子中量                |
| 6 暗 暗 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量  | 15 暗 暗 色 焼土粒子多量、炭化物中量、ローム粒子少量   |
| 7 黒 暗 色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 16 暗 暗 色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 8 黒 暗 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量  | 17 暗 暗 色 ロームブロック中量              |
| 9 暗 暗 色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |                                 |

**遺物出土状況** 土師器片182点(坏47、高坏1、楕1、甕類133)、須恵器片1点(坏蓋)、土製品1点(土玉)、石1点(石核)が出土している。73・74は、P 6の底面からそれぞれ出土しており、73は正位の状態で見つかっている。75は南東コーナー部、76は西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。78は南壁際、77は北壁際の床面からそれぞれ出土しており、77は正位の状態で出土している。DP 7は、中央部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第49図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第50図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第22号竪穴建物跡出土遺物観察表（第49・50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
73	土師器	壺	10.6	4.2	5.0	長石・石英・赤色粒子・纏模	橙	普通	外面横位のヘラナデ、内面摩滅のため不明	P 6底面	90% PL28
74	土師器	壺	14.1	5.8	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面横位のヘラナデ	P 6底面	90% PL28
75	土師器	壺	11.1	9.4	4.9	長石・石英・纏模	にぶい黄橙	普通	外面バケ目調整、内面摩滅のため不明	覆土中層	70% PL30
76	須恵器	壺蓋	14.4	(4.9)	—	長石・石英・赤色粒子・纏模	黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	60% 東清麗ガ PL31
77	土師器	壺	13.9	25.4	6.6	長石・石英・纏模	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ	床面	90% PL35
78	土師器	壺	12.4	(9.9)	—	長石・石英・赤色粒子・纏模	明赤褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ	床面	40% PL33

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP.7	土玉	4.0	4.0	1.1	59.55	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	石核	7.8	5.8	4.0	139.69	滑石	石製模造品製作に使用された残核	覆土中	PL38

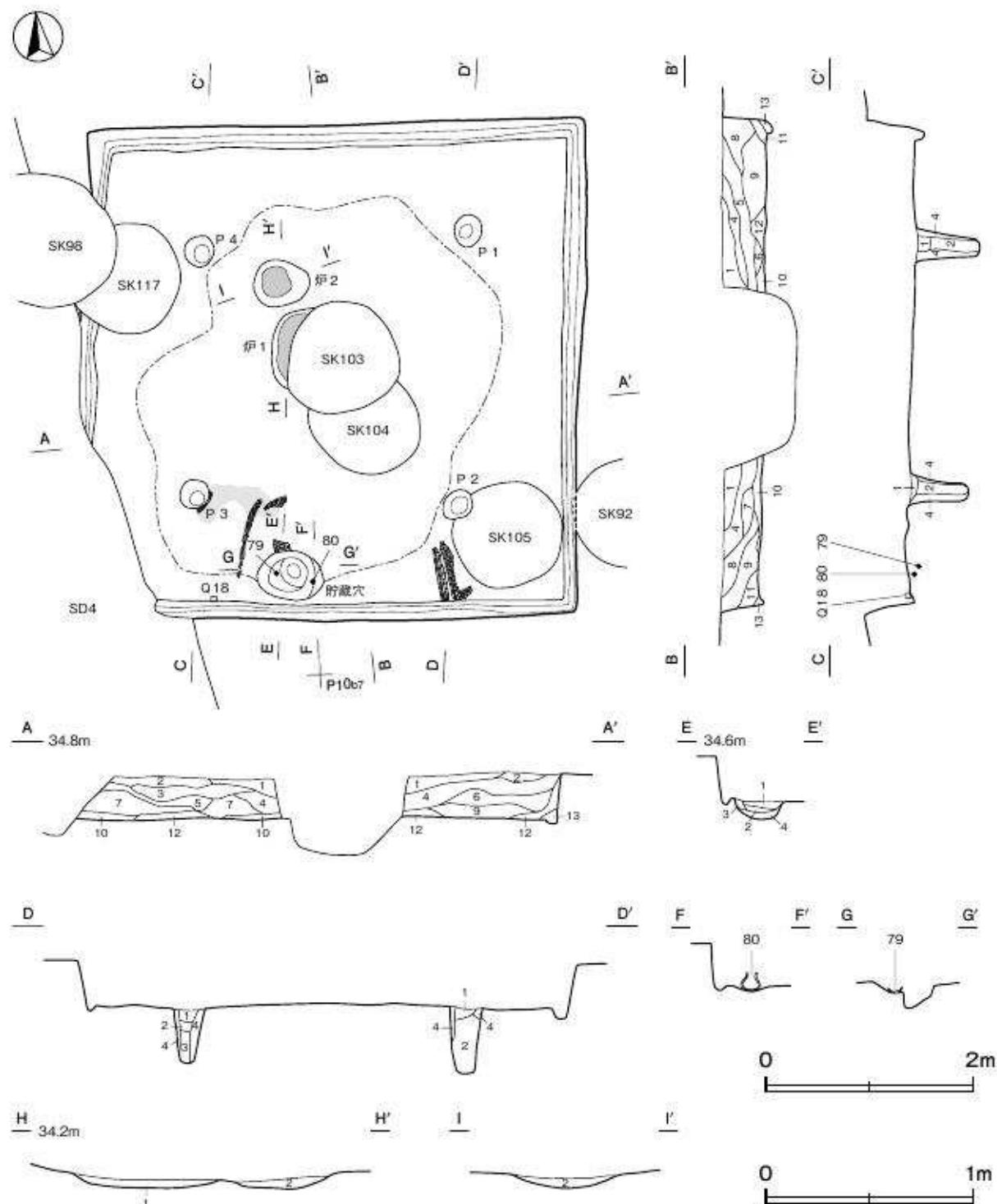
### 第23号竪穴建物跡（第51・52図 PL 7・8）

**位置** 調査区中央部のP10a7区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第4号溝、第98・103～105・117号土坑に掘り込まれ、第92号土坑と新旧不明である。

**規模と形状** 一辺4.85mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ43～60cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10～15cm、深さ6～10cmの壁溝が確認できた面で全周している。南壁寄り床面から、炭化材や焼土が出土している。



第51図 第23号竪穴建物跡実測図

**炉** 2か所。炉1は中央部に、炉2は北壁寄りに位置している。炉1は、第103号土坑に壊されており、長径80cm、短径18cmしか確認できなかったが、平面形は梢円形と推測され、深さ4cmの地床炉である。炉2は、長径54cm、短径46cmの梢円形で、深さ6cmの地床炉である。

#### 炉1・2土層解説

1 淡褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化物中量、ロームブロック少量

**ピット** 4か所。P1～P4は、径24～34cm、深さ50～62cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。

#### ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	3 褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	4 褐色 ロームブロック多量

**貯蔵穴** 南壁際のほぼ中央部に位置している。長径66cm、短径48cmの梢円形である。深さは18cmで、壁は外傾している。

#### 貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量	3 褐色 ロームブロック多量
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	4 褐色 ローム粒子多量

**覆土** 13層に分層できる。ブロック状の不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

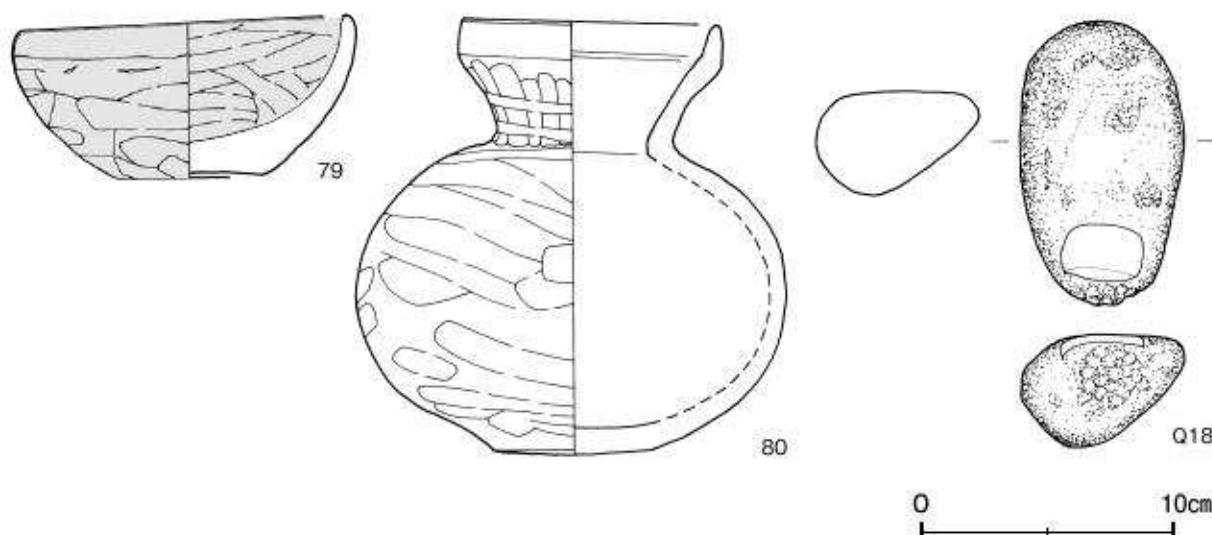
#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	9 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	11 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	12 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量
6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量	13 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量	

**遺物出土状況** 土師器片9点（壺3、壺1、甕類5）、石器2点（敲石、軽石）、自然遺物（炭化米）が出土している。

79・80は、貯蔵穴の底面から正位の状態で出土しており、遺棄されたものと考えられる。Q18は、南壁際の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第52図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第23号竪穴建物跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	土師器	壺	12.9	6.3	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面ヘラ削り後一部ヘラナデ 内面ヘラナデ	貯蔵穴底面	100% PL28
80	土師器	壺	10.1	17.3	6.8	長石・石英・磁鐵	橙	普通	口縁部細部のヘラ削り後積ナデ 体部外周横位のヘラナデ	貯蔵穴底面	100% PL32
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q18	敲石	11.3	6.5	4.6	4562	砂岩	端部敲打痕			床面	

### 第24号竪穴建物跡（第53・54図 PL 8）

**位置** 調査区中央部のP11e2区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第242・275号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.13m、短軸6.04mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁は高さ38~50cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10~16cm、深さ4~10cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は3条あり、幅14~26cm、深さ14cmで、うち2条はP2、P4に向かって延びている。残りの1条は、北壁から南に向かって延びている。床面から、炭化材や焼土が出土している。中央部には、方形に組めそうな太めの材があり、その周囲に細かい材がまばらに散っている。

**炉** 北壁寄りに位置している。長径94cm、短径76cmの梢円形で、深さ8cmの地床炉である。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

**ピット** 4か所。P1~P4は、径24~50cm、深さ72~78cmで、規模や配置から主柱穴である。P2の上層部に柱材が炭化して残存していること、土層から柱痕跡であると推測される。

#### ピット土層解説（P1~3）

1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量

#### ピット土層解説（P4）

1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック多量

**貯蔵穴** 南壁際に位置している。長径100cm、短径74cmの梢円形で、深さは28cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

**覆土** 10層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量

8 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

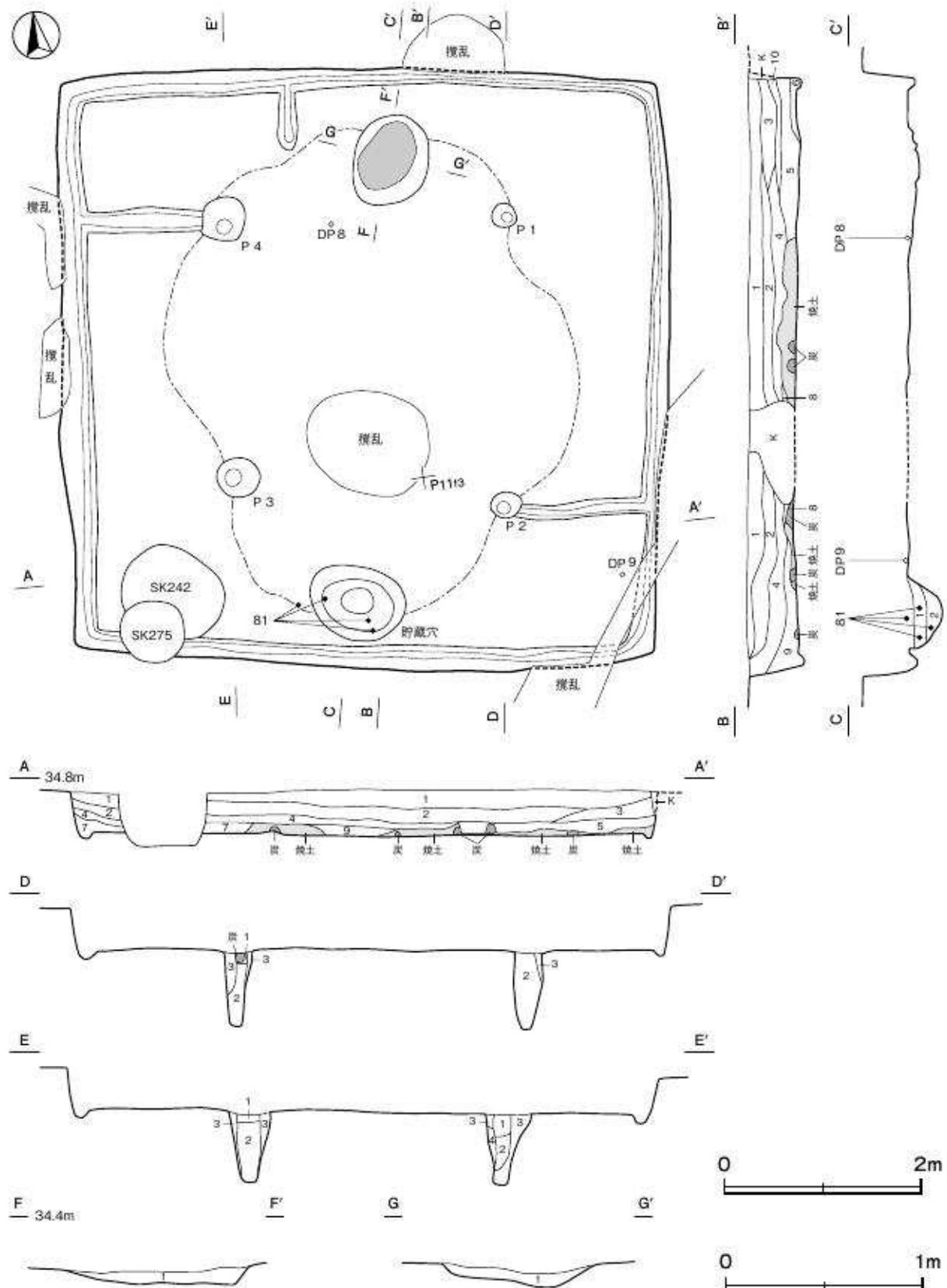
9 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量

5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量

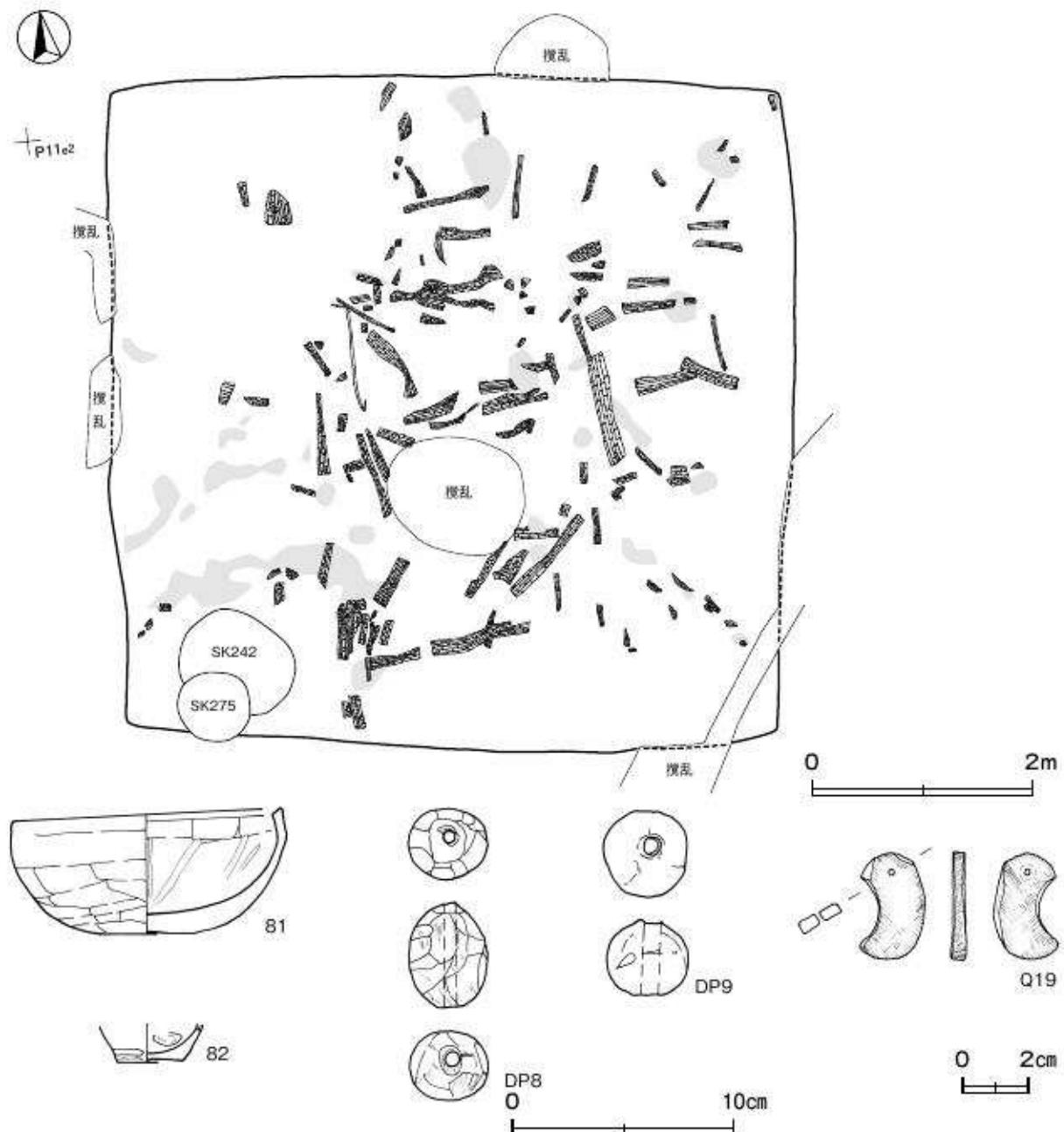
10 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片212点（壺42、塙1、甕類168、手捏土器1）、土製品2点（土玉）、石器2点（鉛石）、石製品1点（勾玉）のほか、弥生土器片2点（広口壺）が、北西部の上層を中心で散乱した状態で出土している。81は、貯蔵穴内から割れた状態で出土したものが接合した。DP8は炉の南側、DP9は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第53図 第24号竪穴建物跡実測図



第54図 第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第24号竪穴建物跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
81	土師器	壺	12.2	5.6	4.3	長石・石英・赤色粒子・細繩	明赤褐色	普通	口縁部内面側面のヘラナデ、体部外側側面のヘラナデ、内面ヘラ磨き	貯蔵穴中層	70%
82	土師器	手捏土器	-	(1.7)	2.7	長石・石英	にぶい橙	普通	内面指痕痕	覆土中	60% PL37

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP8	土玉	3.6	4.8	0.56	(52.09)	長石	橙	ナデ、一方向からの穿孔。孔部一部欠損	床面	
DP9	土玉	3.9	3.4	0.8	47.50	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ、一方向からの穿孔。	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	勾玉	32	2.0	0.4	492	滑石	一方向からの穿孔、穿孔後に表面研磨加工、孔径0.17cm	覆土中	PL39

## 第 25 号竪穴建物跡 (第 55 図 PL 9)

**位置** 調査区中央部の P10g9 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 153・155 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 3.52 m、短軸 2.44 m の長方形で、主軸方向は N - 176° - E である。壁は高さ 6 ~ 10 cm で、外傾している。

**床** 平坦で、炉の周囲から北壁際に掛けて踏み固められている。

**炉** 南壁寄りに位置している。長軸 53 cm、短軸 37 cm の梢円形で、深さ 3 cm の地床炉である。

### 炉土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量

**覆土** 5 層に分層できる。堆積が浅いため不明な点が多いが、ロームブロックや焼土、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

### 土層解説

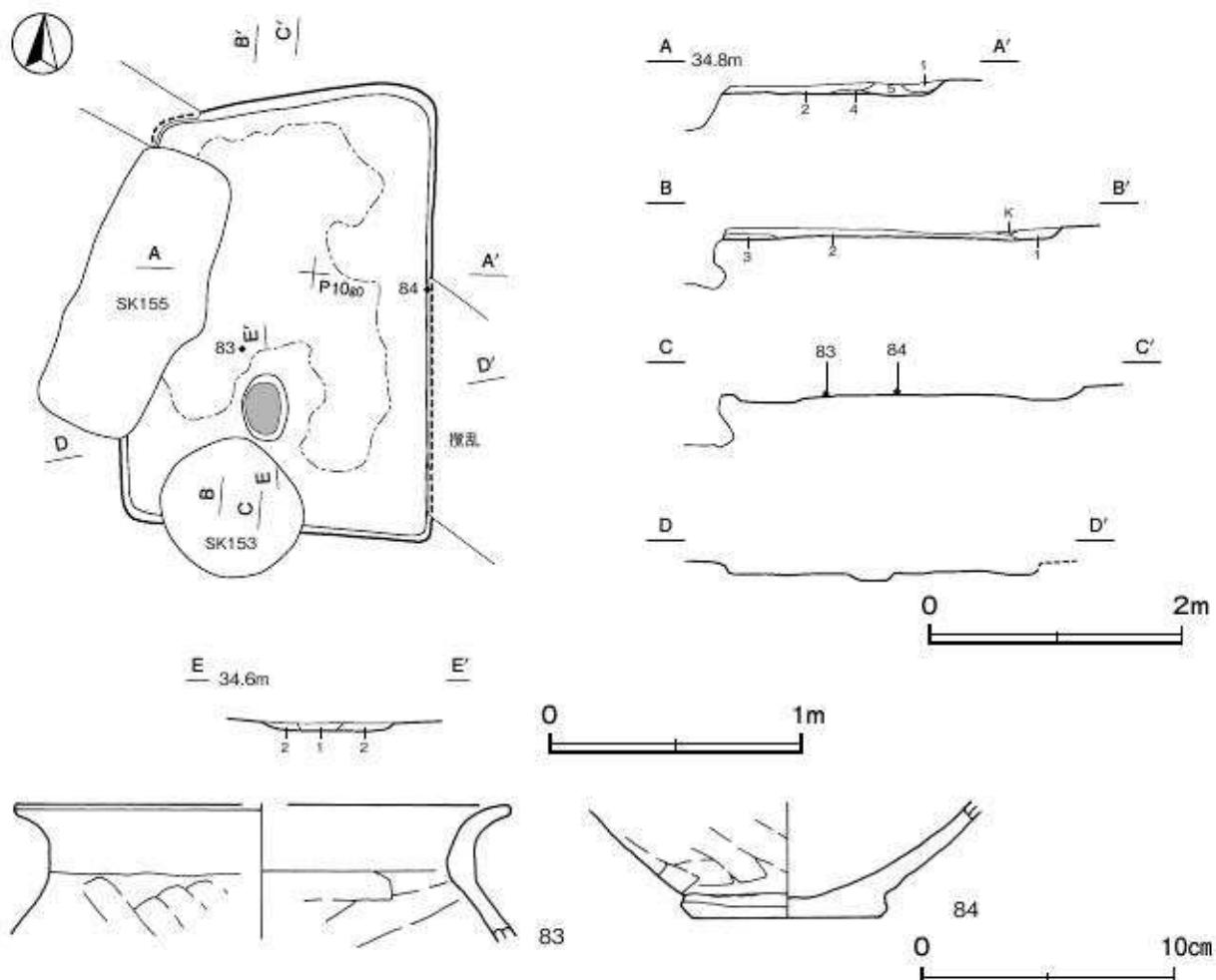
1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片 42 点(壺 1, 壺類 41)が出土している。83 は中央部の床面から、84 は東壁際の床面から、それぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



第 55 図 第 25 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	土師器	甕	[19.5]	(53)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ	床面	5%
84	土面器	甕	-	(4.5)	7.4	長石・石英	黒褐	普通	外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	床面	10%

## 第 26 号竪穴建物跡（第 56 ~ 59 図 PL 9）

**位置** 調査区西部の P9E5 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3A・3B 号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南西コーナー部が、調査区域外に延びている。一辺が 6.85 m ほどの方形で、主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 68 ~ 78cm で、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には、幅 13 ~ 21cm、深さ 8 cm の壁溝が全周している。間仕切り溝が 6 条あり、長さ 84 ~ 153cm、幅 15 ~ 26cm、深さ 10cm である。6 条すべてが壁際からそれぞれ中央に向かって延びている。床面から、炭化材や焼土が放射状に散った状態で出土している。

**炉** 北壁寄りに位置している。長径 83cm、短径 77cm のほぼ円形で、深さ 13cm の地床炉である。

### 炉土層解説

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐 色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子中量  | 3 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐 色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |                             |

**ピット** 6 か所。P 1 ~ P 4 は径 31 ~ 38cm、深さ 60 ~ 72cm で、規模や配置から主柱穴で、土層から柱痕跡であると推測される。P 5・P 6 は、径 32 ~ 40cm で、性格は不明である。

### ピット土層解説 (P 1・P 2)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  | 3 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |                 |

### ピット土層解説 (P 3・P 4)

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 極暗褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量  | 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |                       |

**貯蔵穴** 南壁際中央部に位置している。長径 120cm、短径 94cm の不整梢円形である。深さは 38cm で、壁は外傾している。

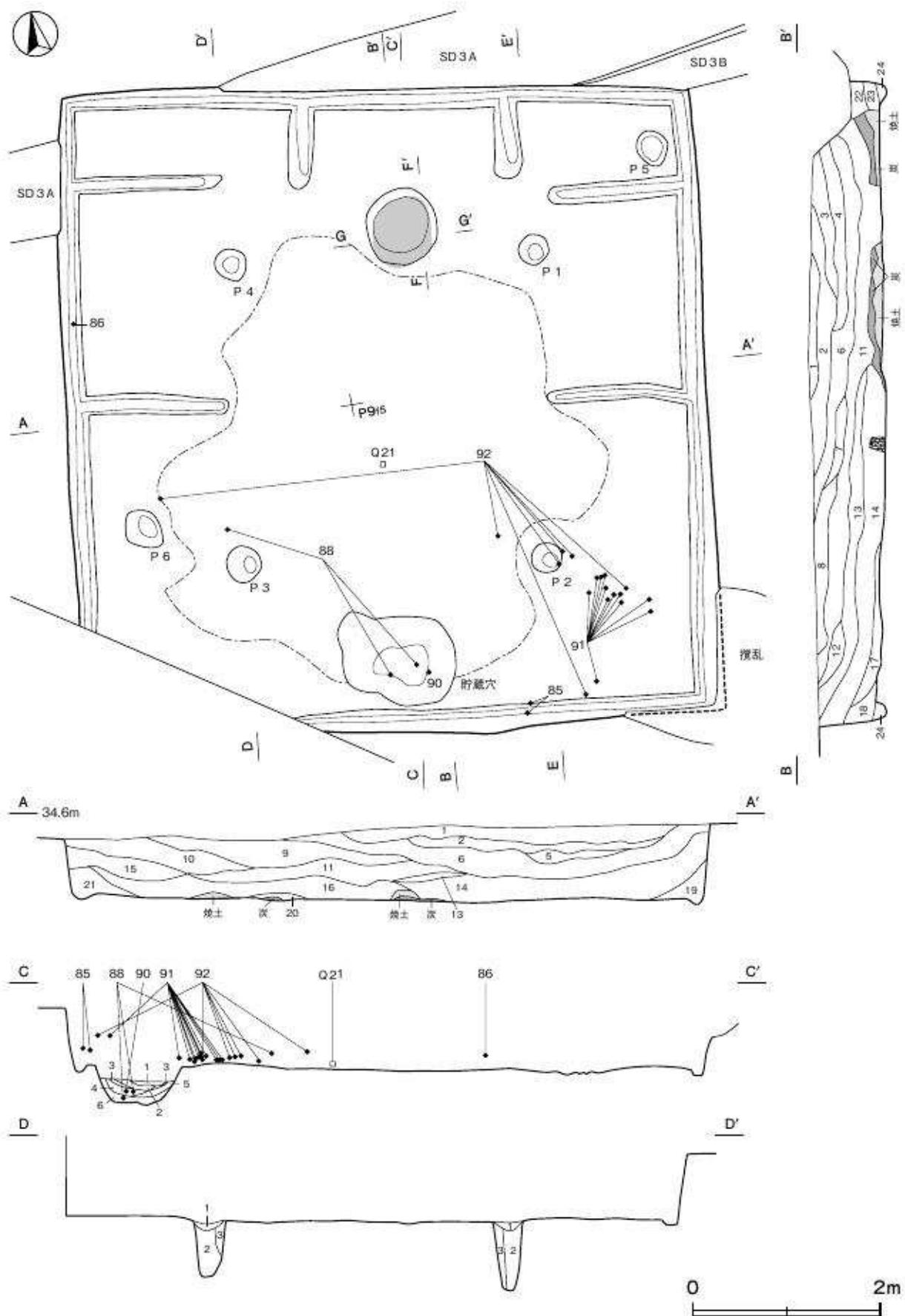
### 貯蔵穴土層解説

- |                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量   | 4 黒褐 色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量     | 5 褐 色 ロームブロック多量           |
| 3 暗赤褐 色 烧土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子少量    |

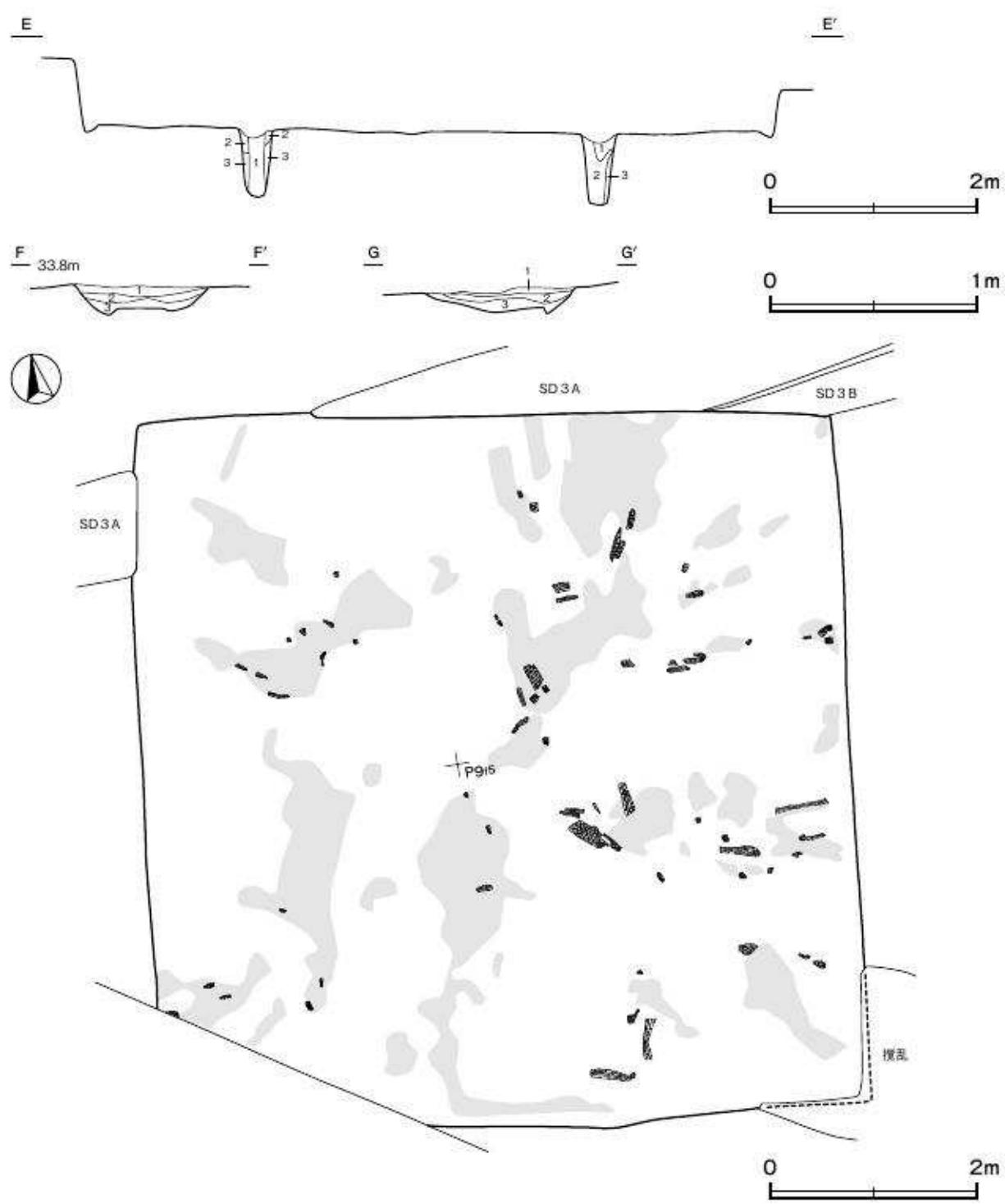
**覆土** 24 層に分層できる。第 1 ~ 3 層は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 4 ~ 24 層は、ロームブロックや焼土、炭化材が多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

### 土層解説

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐 色 ローム粒子微量                | 13 暗褐 色 ロームブロック中量             |
| 2 黒褐 色 ローム粒子少量                | 14 暗褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量       |
| 3 褐 色 ローム粒子多量                 | 15 暗褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック微量      |
| 4 暗褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量         | 16 褐 色 ロームブロック・炭化物少量          |
| 5 黑褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量       | 17 暗褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 6 暗褐 色 ロームブロック微量              | 18 暗褐 色 烧土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 7 黑褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 19 黒褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック微量      |
| 8 暗褐 色 ロームブロック少量              | 20 暗褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量          |
| 9 黑褐 色 炭化粒子多量、ロームブロック中量       | 21 暗褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量        |
| 10 暗褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 22 暗褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量         | 23 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量         |
| 12 暗褐 色 炭化粒子中量、ローム粒子微量        | 24 暗褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量        |



第56図 第26号竪穴建物跡実測図(1)

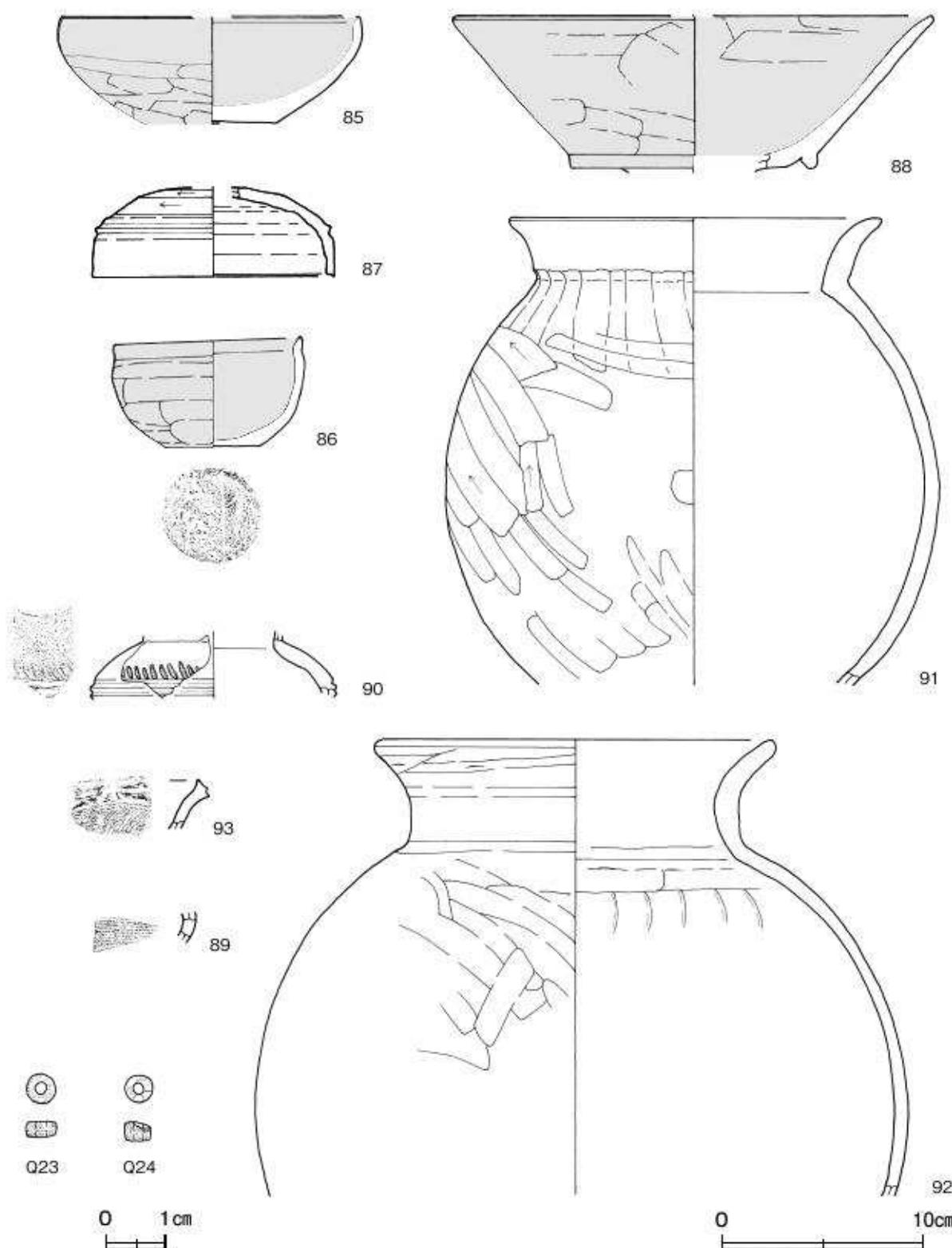


第 57 図 第 26 号竪穴建物跡実測図(2)

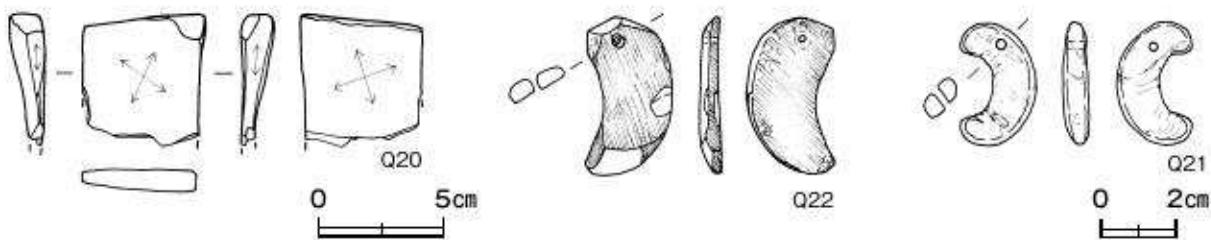
**遺物出土状況** 土師器片 765 点（壺 74、椀 1、高壺 6、壙 7、小形鉢 1、甕類 676）、須恵器片 4 点（壺蓋 1、甕 2、甕 1）、石器 3 点（礫石 1、軽石 2）、石製品 4 点（勾玉 2、白玉 2）が、南東部の中層から下層を中心 に散乱した状態で出土している。85 は、南壁際の覆土下層から、覆土の流れ込みの際に混入したような、斜位の状態で出土している。88・90 は、貯蔵穴の覆土中から出土している。86 は、西壁際の覆土下層から、斜位の状態で出土しており、流れ込みの際に紛れたか、口縁が上を向いているため、覆土堆積後に置かれたと考えられる。91・92 は、覆土中層から床面にかけて、それぞれ散在した状態で出土している。南東コーナー部

での同レベルでの出土が多かったことから、この方向から投棄されたと考えられる。Q21は、中央部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第58図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第59図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第26号竪穴建物跡出土遺物観察表（第58・59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
85	土師器	壺	[14.8]	5.3	6.4	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	外面横位のヘラナデ後一部ヘラ磨き	覆土下層	70% PL28
86	土師器	壺	9.3	5.4	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	外面横位のヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土下層	95% PL30
87	須恵器	壺蓋	[11.9]	(4.4)	-	長石	暗灰黄	普通	左井龍一泡欠損 天井部回転ヘラ削り 体部 外・内面クロナデ	覆土中	10% 東海産
88	土師器	高壺	[23.5]	(7.7)	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ヘラナデ	貯藏穴	5% P97と同一の可能性
89	須恵器	甌	-	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	外面模倣の鋸歯状工具による沈線	覆土中	5% 東海産
90	須恵器	甌	-	(3.3)	-	長石・石英	灰	普通	外・内面ロクロナデ 1条の沈線後に輪郭状工具による刺突	貯藏穴	5% 東海産
91	土師器	甌	18.1	(23.2)	-	長石・石英・磁塵	明赤褐	普通	外面ヘラ削り後一部ヘラナデ 頭部縫合のヘラナデ 内面摩滅により不明	覆土中層～床面	50% PL34
92	土師器	甌	19.3	(22.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面縫合のヘラナデ	覆土中層～床面	30%
93	須恵器	甌	-	(2.1)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	外面波状文	覆土中	5% 東海産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	砥石	(5.2)	4.9	1.3	(36.78)	砂岩	両面使用 側面研磨調整	覆土中	PL38
Q21	勾玉	3.2	2.1	0.7	5.77	滑石	全面研磨調整 一方孔からの穿孔 孔径0.25cm	床面	PL39
Q22	勾玉	4.1	2.3	0.5	8.63	滑石	全面研磨調整 2回にわたる穿孔 孔径0.3cm	覆土中	PL39
Q23	臼玉	0.49	0.49	0.28	0.11	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方孔からの穿孔 中央に棱を有する 孔径0.2cm	覆土中	PL39
Q24	臼玉	0.42	0.42	0.33	0.11	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方孔からの穿孔 中央に棱を有する 孔径0.18cm	覆土中	PL39

### 第27号竪穴建物跡（第60～62図 PL10）

位置 調査区北西部のP9h0区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第28号竪穴建物跡を掘り込み、第221号土坑に掘り込まれている。

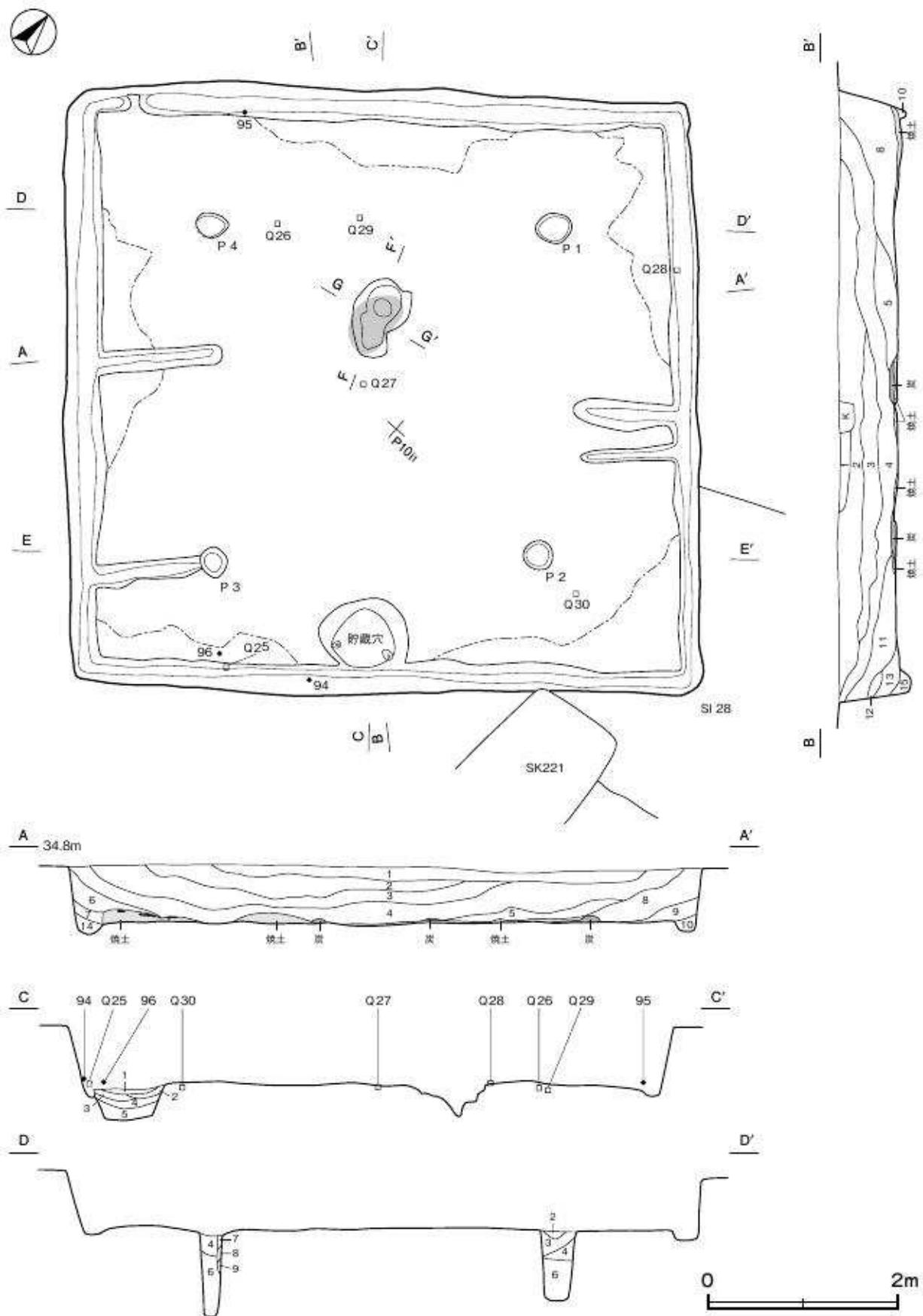
規模と形状 長軸6.64m、短軸6.36mの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁は高さ54～74cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全域が踏み固められている。壁下には、幅20～33cm、深さ10cmの壁溝がほぼ全周している。間仕切り溝は4条あり、長さ95～125cm、幅13～32cm、深さ9cmで、うち1条は、南西壁からP3に向かって延びている。残りの3条は、壁から中央に向かってまっすぐに延びている。床面からは放射状に、炭化材や焼土が出土している。

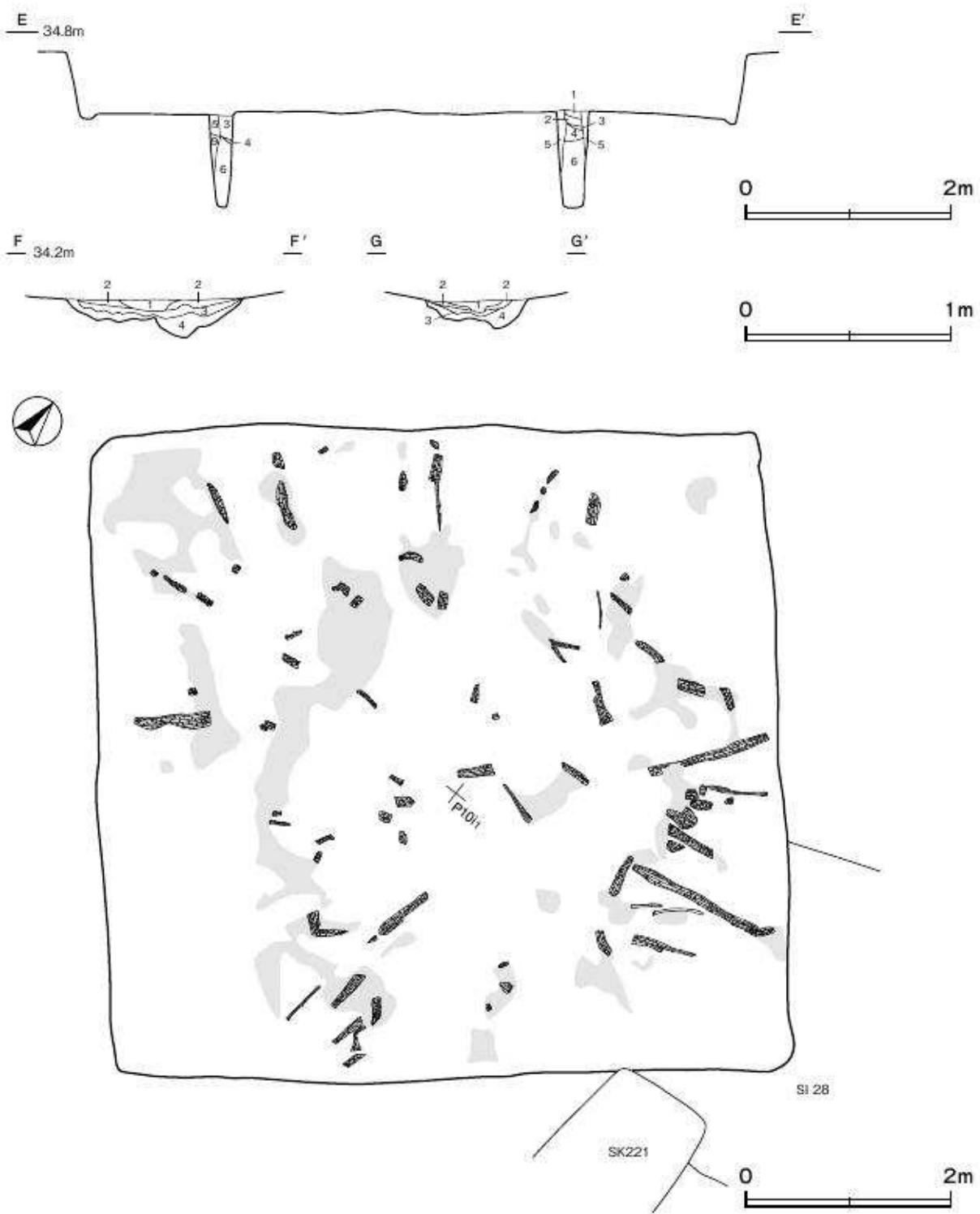
炉 中央部の、やや北西壁寄りに位置している。長径86cm、短径56cmの不整梢円形で、深さ17cmの地床炉である。

#### 炉土層解説

- |                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 暗暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量   |



第60図 第27号竪穴建物跡実測図(1)



第61図 第27号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 4か所。P 1～P 4は、径28～34cm、深さ71～95cmで、規模や配置から主柱穴である。

ピット土層解説 (全ピット共通)

1 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量	6 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 褐 色 ローム粒子多量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量	8 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック微量	9 褐 色 ロームブロック多量
5 褐 色 ロームブロック中量	

**貯蔵穴** 南東壁際の中央部にある。長径 93cm、短径 74cm の円形である。深さは 36cm で、壁は外傾し、底面は平坦である。

**貯蔵穴土層解説**

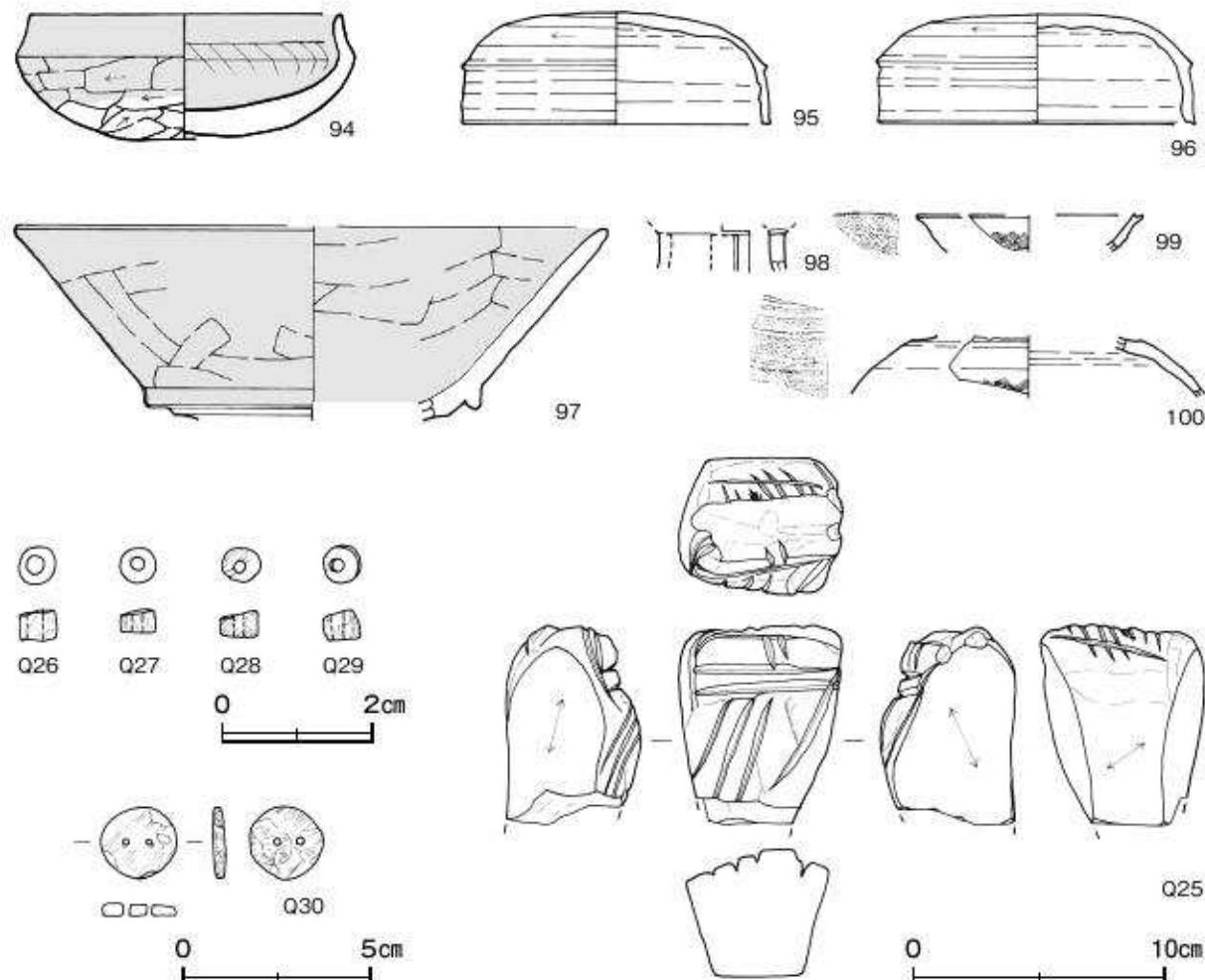
- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化材少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量   | 5 褐色 ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量       |                        |

**覆土** 15 層に分層できる。第 1・2 層は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 3～15 層は、ロームブロックや焼土、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量          | 9 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量          | 10 にぶい褐色 ロームブロック中量        |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量        | 11 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量      |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量          | 12 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量   |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量   | 13 黒褐色 ロームブロック中量          |
| 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量     | 14 暗褐色 ローム粒子中量            |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量        | 15 褐色 ロームブロック中量           |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |                           |

**遺物出土状況** 土師器片 488 点（坏 85、高坏 1、甕類 402）、須恵器片 7 点（坏蓋 4、高坏 1、甕 2）、石器 1 点（砥石）、石製品 5 点（臼玉 4、有孔円板 1）が、覆土上層を中心に散乱した状態で出土している。94 は、南東壁際から斜位の状態で出土している。95 は、北西壁際の床面から正位の状態で出土している。96 は、95 と対峙



第 62 図 第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図

する南東壁際の床面から割れた状態で出土している。95・96は、対になるように意図的にその場に置かれたと考えられる。Q25は南東壁際の壁溝内、Q26・Q29は北西壁寄りの床面、Q28は北東壁際の床面、Q30は東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀末葉～6世紀初頭と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。

第27号竪穴建物跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
94	土師器	壺	12.4	4.9	3.2	長石・石英	にぶい橙	普通	外側ヘラ削り後ヘラナデ 内面縦位のヘラ磨き	覆土下層	90% PL29
95	須恵器	环蓋	12.3	4.4	-	長石・石英・磁鐵	灰	普通	天井部回転ヘラ削り 体部外・内面クロコナデ	床面	100% 東海産 PL31
96	須恵器	环蓋	12.5	4.4	-	長石・黒色粒子	灰	普通	天井部回板ヘラ削り 体部外・内面クロコナデ	床面	95% 東海産 PL31
97	土師器	高壺	[23.5]	(7.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ	覆土中	10% P88と同一の可能性
98	須恵器	高壺	-	(1.6)	-	長石・石英	灰	良好	透かし部残存 方形透かし 外・内面ヘラナデ	覆土中	5% 東海産
99	須恵器	甌	[9.0]	(1.4)	-	長石・石英・磁鐵	暗灰黄	良好	外側ヘラナデ後波状文 内面ヘラナデ 内面自然釉付着	覆土中	5% 東海産
100	須恵器	甌	-	(2.4)	-	長石・黒色粒子	暗灰黄	普通	体部外・内面クロコナデ 脊部横斜状工具による波状文	覆土中	5% 東海産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	砥石	(8.0)	7.5	5.5	344.49	砂岩	全面使用 正面と背面の一部は鉄製品の刃を研磨するのに使用	壁溝	PL38
Q26	臼玉	0.49	0.49	0.39	0.15	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.21cm	床面	PL39
Q27	臼玉	0.50	0.50	0.27	0.11	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.17cm	床面	PL39
Q28	臼玉	0.53	0.53	0.32	0.14	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.16cm	床面	PL39
Q29	臼玉	0.49	0.49	0.39	0.13	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.19cm	床面	PL39
Q30	有孔円板	1.9	2.0	0.35	230	滑石	両面ほぼ平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.2cm	床面	PL40

### 第28号竪穴建物跡（第63図 PL10）

**位置** 調査区南西部のP10h2区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第27号竪穴建物、第221・232号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部を第27号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は344mで、東西軸は21.0mしか確認できなかった。長方形と推定され、主軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ30～35cmで、ほぼ直立している。  
**床** 平坦である。

**炉** 2か所。炉1は南側に、炉2は中央部に位置している。炉1は、長径48cm、短径45cmの不整円形で、深さ9cmの地床炉である。炉2は、長径56cm、短径49cmの円形で、深さ14cmの地床炉である。

#### 炉土層解説（炉1・2共通）

1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	3 赤褐色 烧土粒子中量
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	4 にぶい褐色 ローム粒子中量

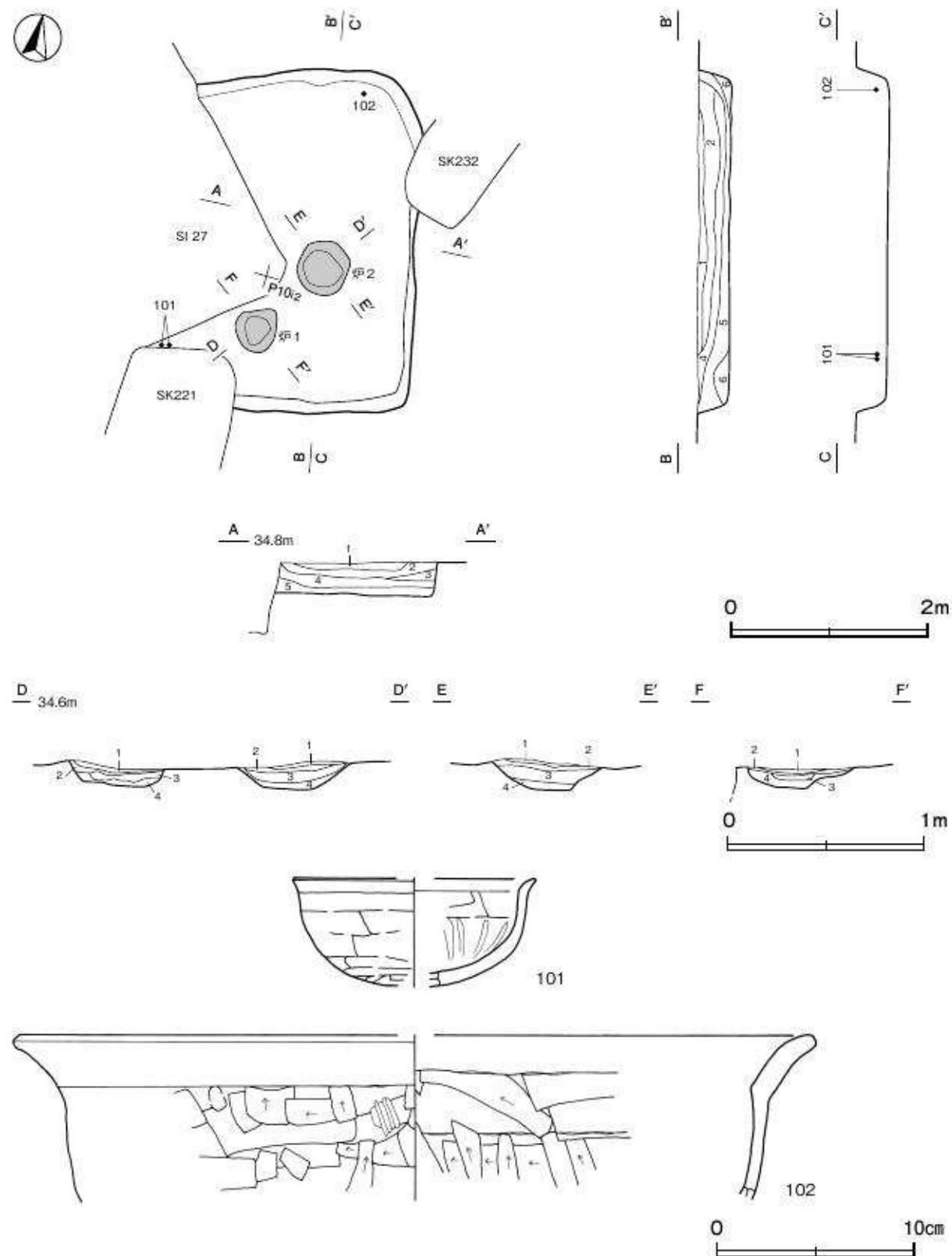
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色 ローム粒子中量
3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 176 点（壺 19, 高壺 2, 鉢 1, 壺類 154）が出土している。101 は南部の覆土下層から、102 は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



第 63 図 第 28 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

### 第28号竪穴建物跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	土師器	坪	[12.2]	(5.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面ヘラ削き	覆土下層	10%
102	土師器	鉢	[40.4]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子・錆斑	暗褐	普通	外面ヘラ削り後一部ヘラナデ 内面ヘラ削り	覆土下層	10%

### 第29号竪穴建物跡（第64～67図 PL11）

**位置** 調査区南西部のP10j5区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第10号溝、第100・222・223号土坑に掘り込まれ、第234・237～239号土坑と新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸7.73m、短軸7.64mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁は高さ58～60cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅22～30cm、深さ10cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は7条あり、長さ100～120cm、幅20～39cm、深さ10～14cmで、それぞれ壁際からP4・P6～P11に向かって延びている。床面からは放射状に、炭化材や焼土が出土している。

**炉** 2か所。中央部に炉1、北壁寄りに炉2が位置している。炉1は、長径118cm、短径46cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉2は、長径70cm、短径44cmの楕円形で、深さ12cmの地床炉である。

#### 炉土層解説

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物 微量 | 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
|----------------------------------|----------------------------|

**ピット** 16か所。P1～P4は、径32～43cm、深さ75～96cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕である。P5は、径32cm、深さ24cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。P6～P11は、径23～32cm、深さ16～53cmで、補助柱穴と考えられる。P12～P16は、径16～35cm、深さ5～38cmで、性格は不明である。

#### ピット土層解説（P1）

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 褐 色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック中量     |

#### ピット土層解説（P2）

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量      | 4 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量      |

#### ピット土層解説（P3）

- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 褐 色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化材少量    | 4 褐 色 ロームブロック中量        |
| 2 極暗褐色 炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子少量   | 5 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |                        |

#### ピット土層解説（P4）

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 2 褐 色 ロームブロック・炭化物少量 |
|-----------------------------|---------------------|

#### ピット土層解説（P5）

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-----------------------------|-----------------------------|

#### ピット土層解説（P6）

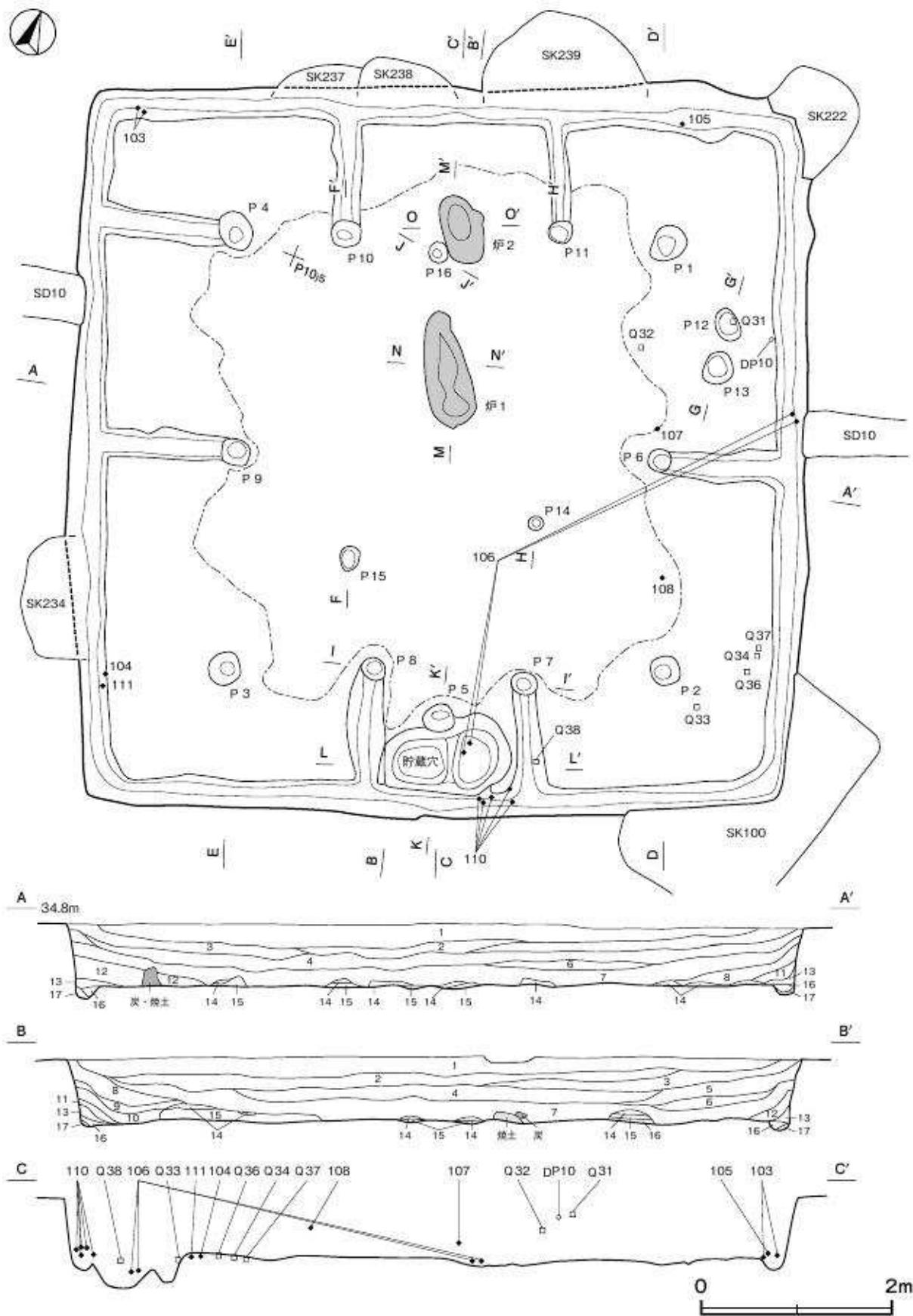
- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 色 炭化物・焼土粒子少量          | 3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック・炭化物少量         |

#### ピット土層解説（P9）

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 2 褐 色 ロームブロック・炭化物少量 |
|-----------------------------|---------------------|

#### ピット土層解説（P10）

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量    |                 |



第64図 第29号竪穴建物跡実測図(1)

**ピット土層解説 (P11・P14)**

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

3 にぶい褐色 ロームブロック中量

**ピット土層解説 (P12・P13・P15)**

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

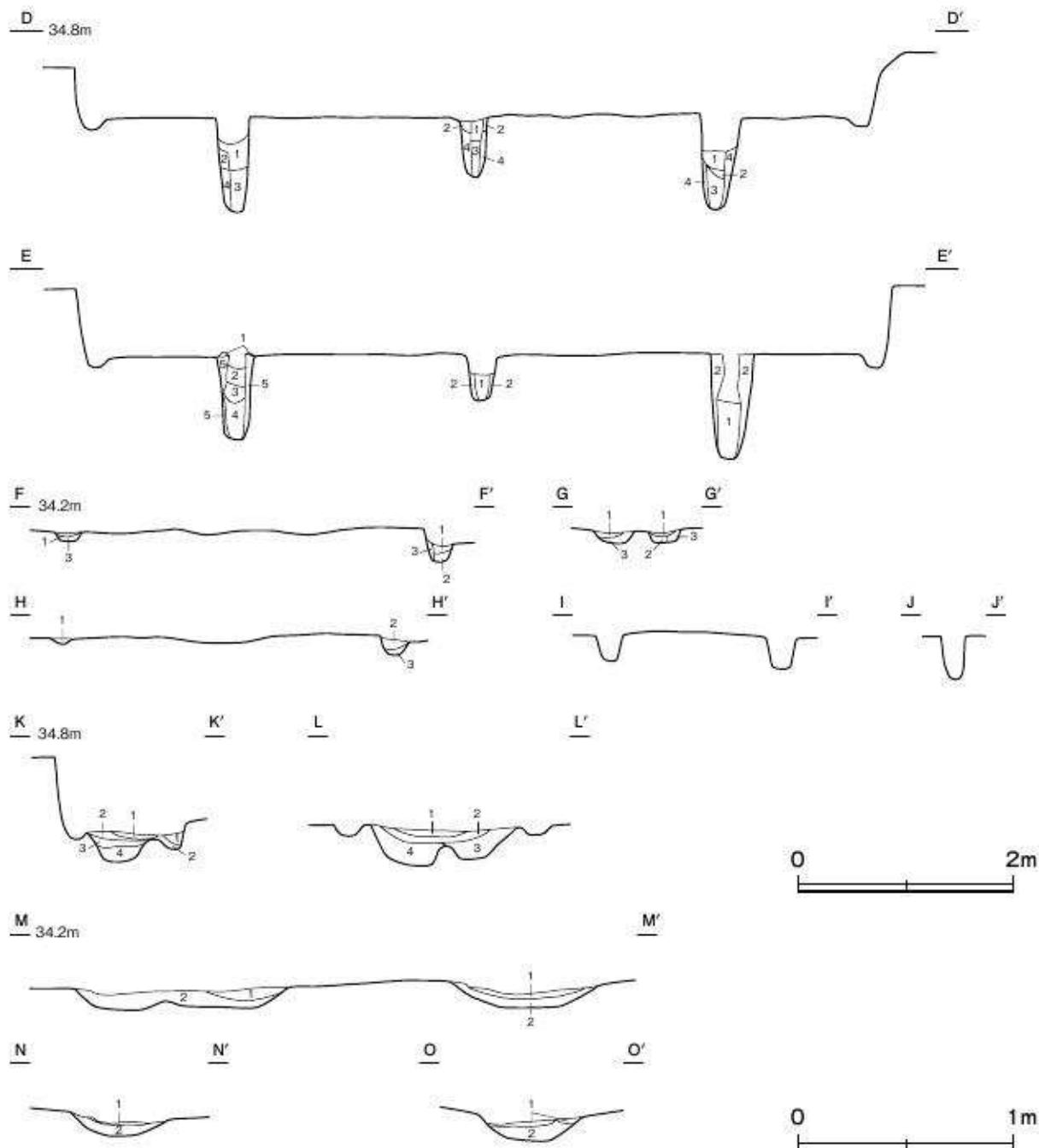
3 にぶい褐色 ロームブロック中少量

**貯藏穴** 南壁際の中央部に位置している。長径 132cm、短径 85cm の梢円形である。深さは 36cm で、中央部が仕切のように高くなっている。

**貯藏穴土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
4 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

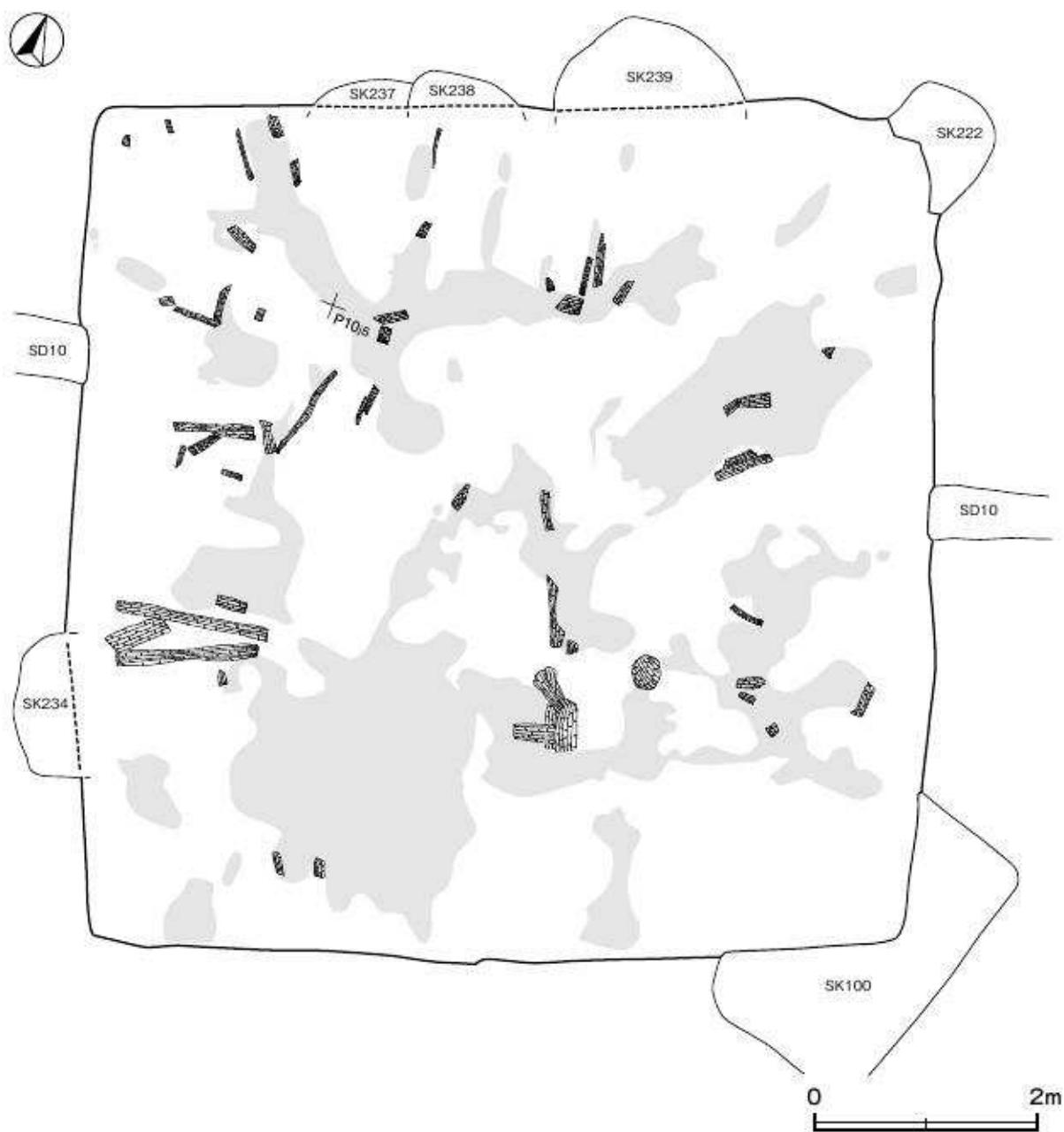


第 65 図 第 29 号竪穴建物跡実測図(2)

**覆土** 17層に分層できる。ブロック状に堆積し、ロームブロックや焼土、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

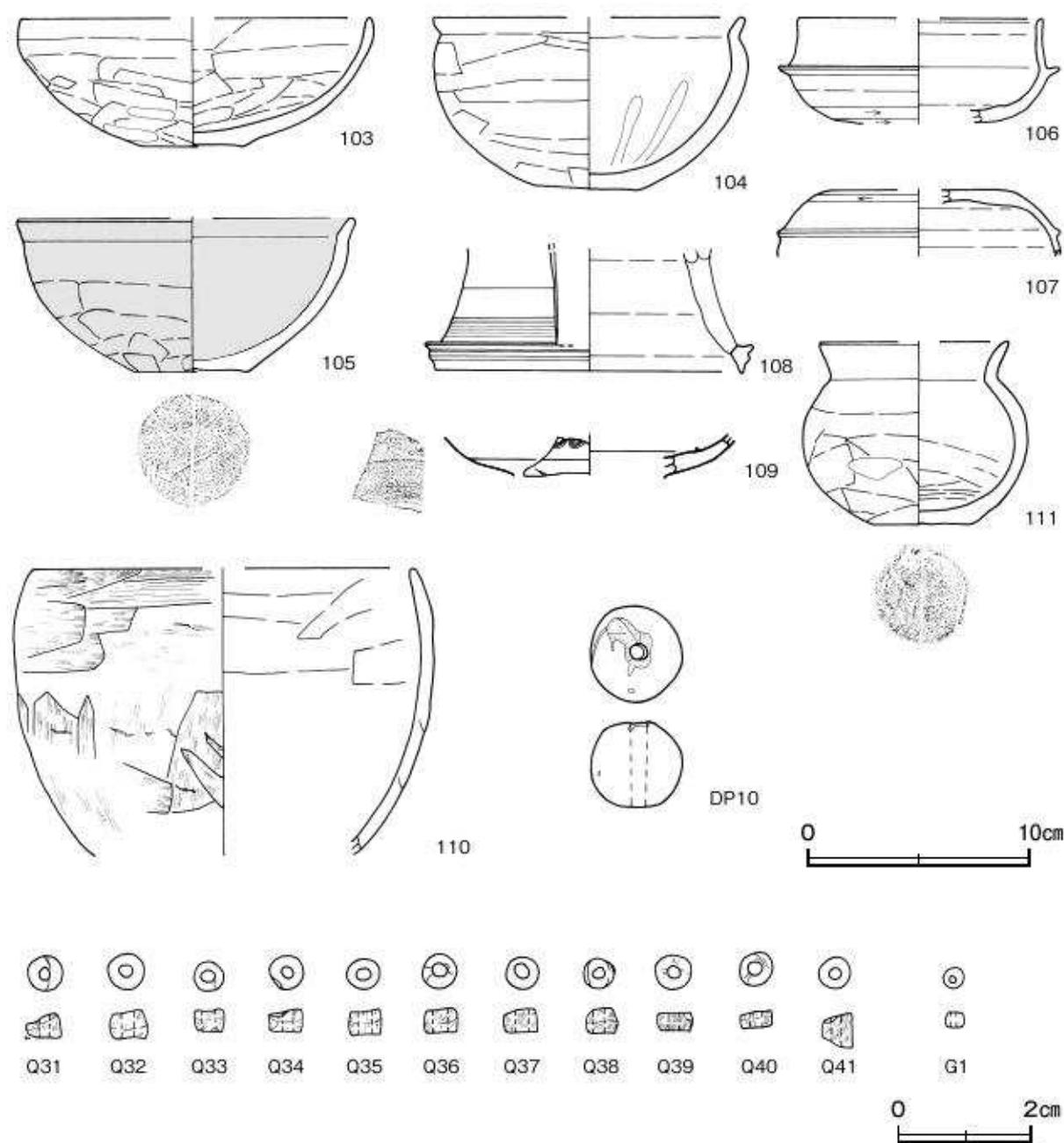
1	黒	暗褐色	ローム粒子中量。焼土粒子微量	10	黒	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量
2	黒	褐色	ローム粒子中量。焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗	褐色	ローム粒子中量。炭化粒子少量。焼土粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子中量。炭化物少量。焼土粒子微量	12	黒	褐色	ロームブロック・炭化物少量。焼土粒子微量
4	黒	褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	13	褐	色	ロームブロック中量
5	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量。焼土粒子微量	14	赤	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
6	褐	色	ロームブロック・炭化物少量	15	赤	色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
7	褐	色	炭化材・焼土粒子中量、ロームブロック少量	16	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐	色	ロームブロック多量
9	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量				



第66図 第29号竪穴建物跡遺物実測図(3)

**遺物出土状況** 土師器片 593 点（坏 150、高坏 15、鉢 1、壺 1、甕類 426）、須恵器片 10 点（坏身 7、坏蓋 1、高坏 2）、土製品 1 点（土玉）、石製品 11 点（臼玉）、ガラス製品 1 点（小玉）、自然遺物（炭化米）が、覆土上層から中層に散乱した状態で出土している。103 は北西コーナー部、104・111 は南西コーナー部、105 は北東コーナー部のそれぞれ床面から出土している。104・111 は正位の状態で 2 点並んで出土している。106 は、貯蔵穴内と東壁際から出土した破片が接合した。107 と 108 は、それぞれ東壁側の覆土中層から出土している。110 は、南壁際から斜位の状態で割れて出土しており、流れ込みと考えられる。DP10 は、東壁際の覆土上層から出土している。Q31・Q32 は東壁寄りの覆土上層～中層、Q33・Q34・Q36・Q37 は南東コーナー部の床面からそれぞれまとまって出土している。Q38 は、貯蔵穴の東側にある間仕切り溝内から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第 67 図 第 29 号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 67 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
103	土師器	环	[15.7]	5.8	4.6	長石・石英	赤褐	普通	外・内面横位のヘラナデ後一部ヘラ磨き	床面	90% PL29
104	土師器	环	[14.0]	7.8	4.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面横位のヘラナデ 内面ヘラ磨き	床面	60% PL28
105	土師器	环	[15.1]	6.9	5.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	40%
106	須恵器	环身	[11.0]	(4.7)	—	長石・石英・緑隕	灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り 口縁部外・内面クロナデ	竪穴内 覆土下層	30% 東北座 PL29
107	須恵器	环蓋	—	(3.0)	—	長石・石英・緑隕	灰オーリーフ	普通	天井部外面回転ヘラ削り 内面仕上げナデ 体部外・内面クロナデ	覆土中層	20% 陶邑座
108	須恵器	高环	—	(5.6)	[14.0]	長石・石英	黒	良好	外面カキ目 内面ヘラナデ 方形透かし	覆土中層	10% 陶邑座
109	須恵器	高环	—	(1.8)	—	長石・石英	灰	普通	环部外面下位回転ヘラ削り 波状文 内面ヘラナデ 重ね焼き痕有り 逆位での焼成	覆土中	5% 陶邑座
110	土師器	鉢	[17.2]	(12.9)	—	長石・石英	橙	普通	外面ハケ目調整 内面ヘラナデ	覆土下層	30%
111	土師器	壺	[8.4]	8.3	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面ヘラナデ後一部ヘラ磨き 内面横位のヘラナデ 底部木葉痕	床面	90% PL33

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP10	玉	4.3	3.8	0.7	66.74	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q31	臼玉	0.53	0.53	0.34	0.12	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜から穿孔 孔径 0.19cm	覆土上層	PL39
Q32	臼玉	0.56	0.56	0.40	0.19	滑石	全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中層	PL39
Q33	臼玉	0.44	0.44	0.23	0.09	滑石	全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.21cm	床面	PL39
Q34	臼玉	0.53	0.53	0.35	0.13	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.20cm	床面	PL39
Q35	臼玉	0.50	0.50	0.36	0.15	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	PL39
Q36	臼玉	0.51	0.51	0.37	0.13	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.19cm	床面	PL39
Q37	臼玉	0.53	0.53	0.37	0.16	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.19cm	床面	PL39
Q38	臼玉	0.49	0.49	0.37	0.14	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 中央に棱を有する 孔径 0.16cm	側面切り溝底面	PL39
Q39	臼玉	0.52	0.52	0.28	0.13	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 中央に棱を有する 孔径 0.18cm	覆土中	PL39
Q40	臼玉	0.51	0.51	0.27	0.11	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方斜からの穿孔 中央に棱を有する 孔径 0.18cm	覆土中	PL39
Q41	臼玉	0.46	0.46	0.48	0.15	滑石	全面研磨加工 一方斜からの穿孔 孔径 0.18cm	覆土中	PL39

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	色	材 質	特 徴	出土位置	備 考
G1	小玉	0.31	0.21	0.1	0.02	綠灰	ガラス		覆土中	PL40

### 第 30 号竪穴建物跡（第 68 図）

**位置** 調査区北西部の P9f0 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 230 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が搅乱を受けているため、南北軸は 2.73 m、東西軸は 3.26 m しか確認できなかった。長方形と推測され、東西軸方向は N - 65° - E である。壁は高さ 14 ~ 18cm で、外傾している。

**床** 平坦である。

**ピット** 5 か所。P 1 ~ P 5 は、径 17 ~ 40cm、深さ 8 ~ 10cm で、性格は不明である。

#### ピット土層解説 (P 1・P 2)

1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐 色 ローム粒子中量

**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 暗褐色 色 炭化粒子少量

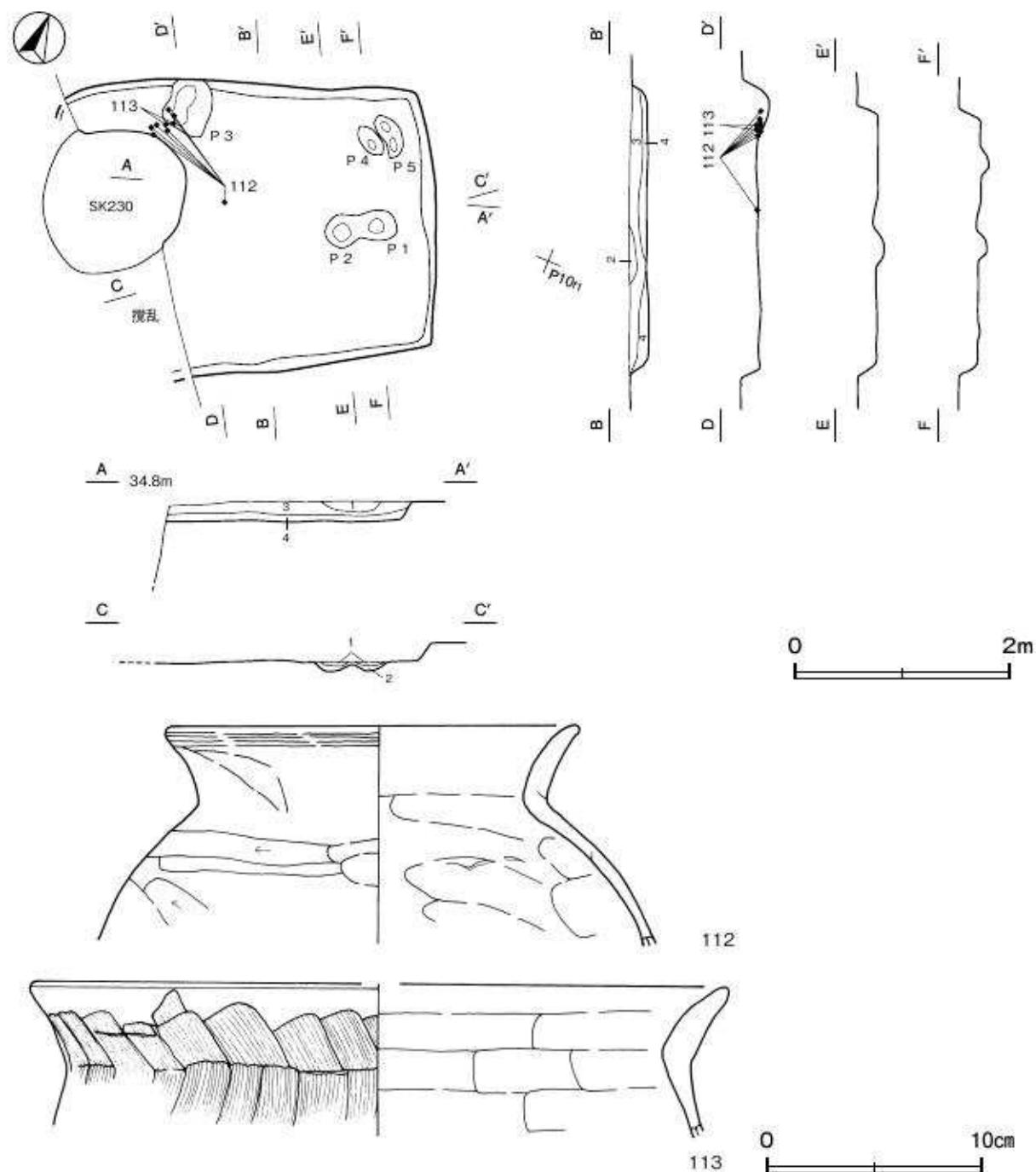
3 暗褐色 色 ロームブロック少量

2 暗褐色 色 ローム粒子・焼土粒子少量

4 にぶい褐色 色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片 292 点（壺 27、甕類 265）、須恵器片 2 点（壺身、甕類）が、北西部床面から散乱した状態で出土している。112・113 は、北西壁際の床面から割れた状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



第 68 図 第 30 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	甕	18.9 (10.2)	—	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ		床面	20%
113	土師器	甕	[32.4]	(7.0)	—	長石・石英・磁鐵	にぶい橙	普通 外面報応のハケ目調整 内面横位のヘラナデ		床面	10%

### 第31号竪穴建物跡（第69・70図 PL11・12）

**位置** 調査区南部のQ11j5区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 南西コーナー部が調査区域外へ延びているが、長軸5.72m、短軸5.60mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ46~48cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10~17cm、深さ3~8cmの壁溝がほぼ全周している。間仕切り溝は5条あり、長さ50~105cm、深さ4~9cmである。3条は、壁際からP1・P4・P6に向かってまっすぐに延び、それぞれに接している。1条は、西壁際から中央に向かって延びている。1条は、貯蔵穴の東側に位置する。床面全体に炭化材や焼土が出土しており、中央部には方形の小屋組みがそのまま落下したような状況で遺存している。

**炉** 2か所。中央部寄りに炉1、北壁寄りに炉2がそれぞれ位置している。炉1は、長径33cm、短径25cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉2は、長径52cm、短径49cmの不整円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

**ピット** 6か所。P1~P4は、径24~40cm、深さ60~76cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。P5は径19cm、深さ29cmで、南壁寄りの中央部、貯蔵穴の北側に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P6は、径23cm、深さ22cmで、位置から補助柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説（P1~P4共通）

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材・焼土粒子微量  
2 暗褐色 炭化材・ローム粒子微量  
3 暗褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ロームブロック少量  
5 にぶい褐色 ローム粒子中量

#### ピット土層解説（P5）

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南壁際の中央部に位置している。長径124cm、短径113cmの楕円形である。深さは62cmで、壁はほぼ直立しており、底面は平坦で、西側がピット状に凹んでいる。

#### 貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**覆土** 10層に分層できる。第1・2層は、レンズ状を呈していることから自然堆積である。第3~10層は、ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから埋め戻されている。

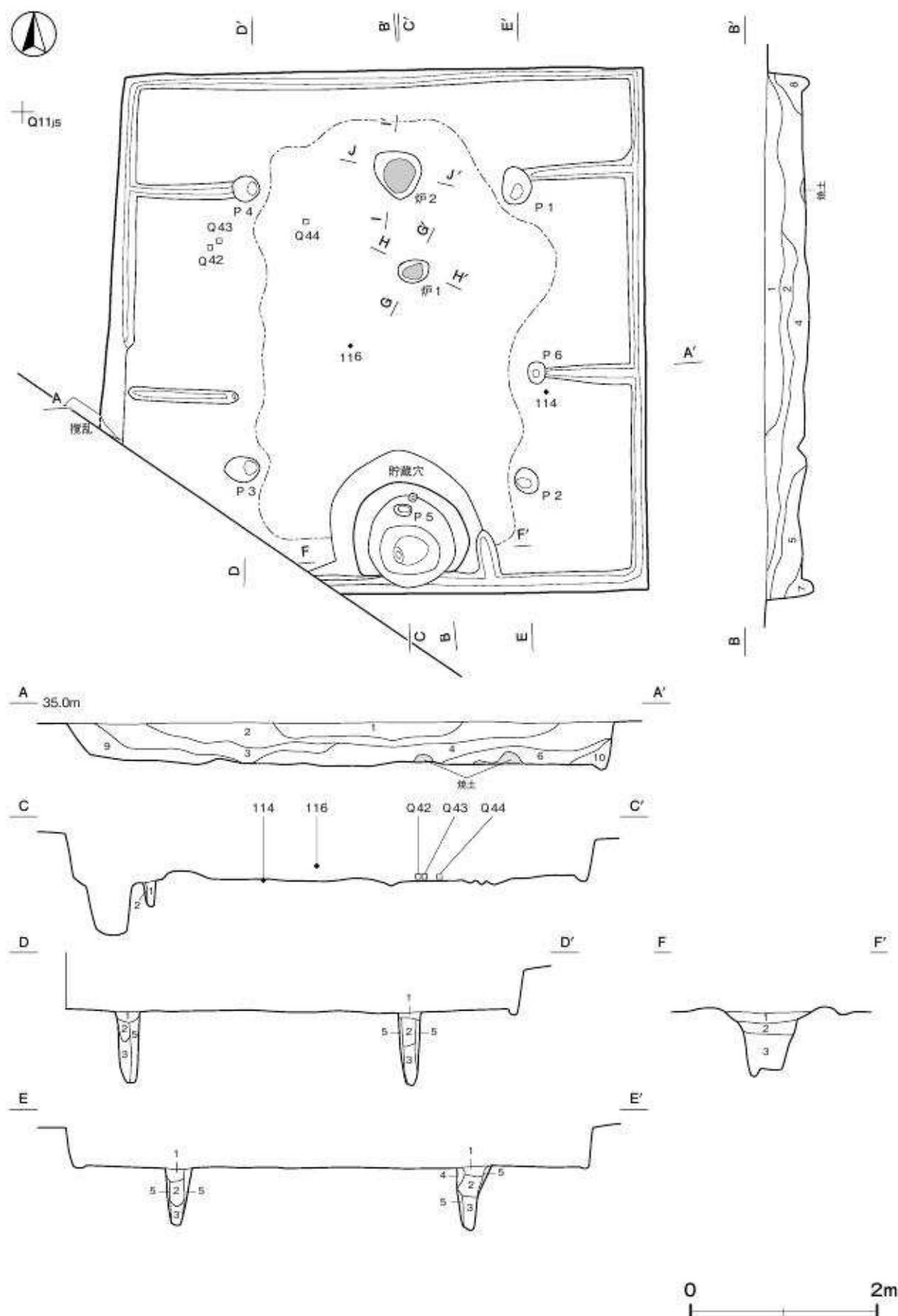
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

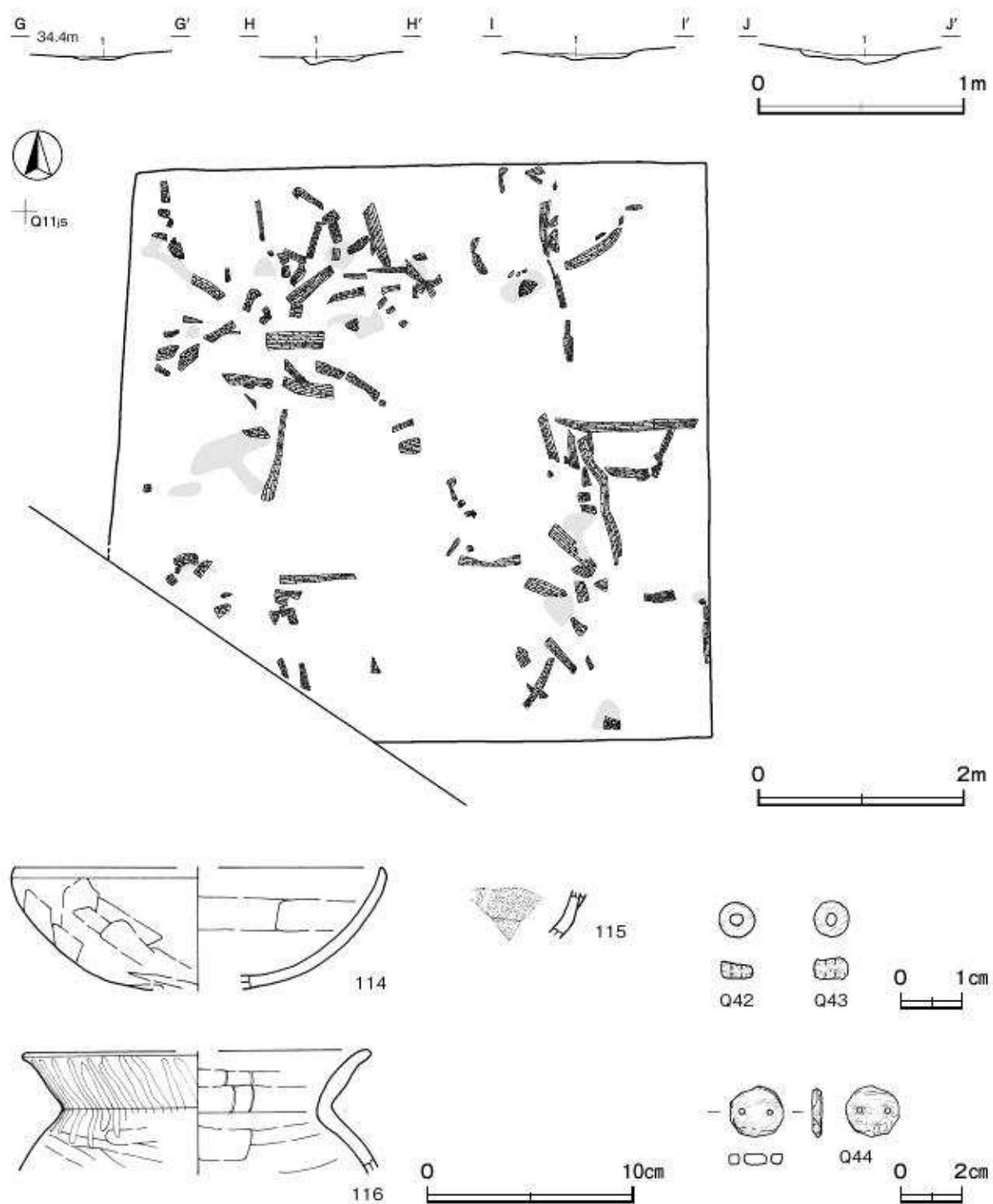
6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  
7 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量  
8 褐色 ローム粒子中量  
9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量  
10 暗褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片81点（坏19、甕類62）、須恵器片4点（坏身3、高坏1）、石製品3点（臼玉2、有孔円板1）が出土している。114は、P6南側の床面から出土している。116は、中央部の覆土中層から出土している。Q42~Q44は、P4南側の覆土下層、焼土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第69図 第31号竪穴建物跡実測図



第70図 第31号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第31号竪穴建物跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	土師器	壺	[18.0]	(5.9)	—	長石・石英・赤色粒子・細繊	明赤褐色	普通	口縁部指ナデ 外・内面ヘラナデ	床面	30%
115	須恵器	縁部片	—	(2.3)	—	長石・石英	灰	良好	外面波状文 把手部残存	覆土中	5% 四邑産
116	土師器	壺	[16.6]	(6.0)	—	長石・石英	褐	普通	口縁部外面粗粒のヘラ磨き 体部横位のナデ 内面横位のヘラナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	臼玉	0.54	0.54	0.29	0.12	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 中央に縫を有する 孔径 0.18cm	覆土下層	PL39
Q43	臼玉	0.54	0.54	0.35	0.17	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 中央に縫を有する 孔径 0.18cm	覆土下層	PL39
Q44	有孔円板	1.6	1.75	0.35	1.67	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.15 - 0.2cm	覆土下層	PL40

### 第32号竪穴建物跡（第71～73図 PL12～14）

**位置** 南部のQ1217区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 一辺が5.30mほどの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁は高さ43～47cmで、直立している。

**床** 平坦である。壁下には、幅7～15cm、深さ6～10cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は5条で、長さ60～120cm、深さ4～5cmである。3条は、壁際からP1・P3・P4に向かって延びている。2条は、壁際から中央に向かって延びている。床面からは、炭化材や焼土が出土している。中央部には、方形の小屋組みがそのまま落下した状況で太い材が遺存し、その外側には細い丸材が放射状に認められる。壁際には、壁に沿うように材が出土している。

**炉** 北西壁寄りに位置している。長径77cm、短径45cmの梢円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化材微量

**ピット** 5か所。P1～P4は、径18～34cm、深さ64～86cmで、規模や配置から主柱穴である。P1・P2の上面で炭化した柱材が立った状態で確認でき、土層から柱痕跡と推測される。P5は径19cm、深さ26cmで、南東壁寄りの中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

#### ピット土層解説（P1～P4共通）

1 におい褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量

4 灰褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量、焼土粒子微量

5 におい褐色 ロームブロック少量

3 におい褐色 ローム粒子中量、炭化物少量

6 灰褐色 ローム粒子中量

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径60cm、短径57cmの円形で、深さ45cmである。壁はほぼ直立しており、底面は皿状である。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量

3 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量、焼土粒子微量

**覆土** 8層に分層できる。焼土や炭化材が多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

5 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

6 黒褐色 ローム粒子少量、炭化材微量

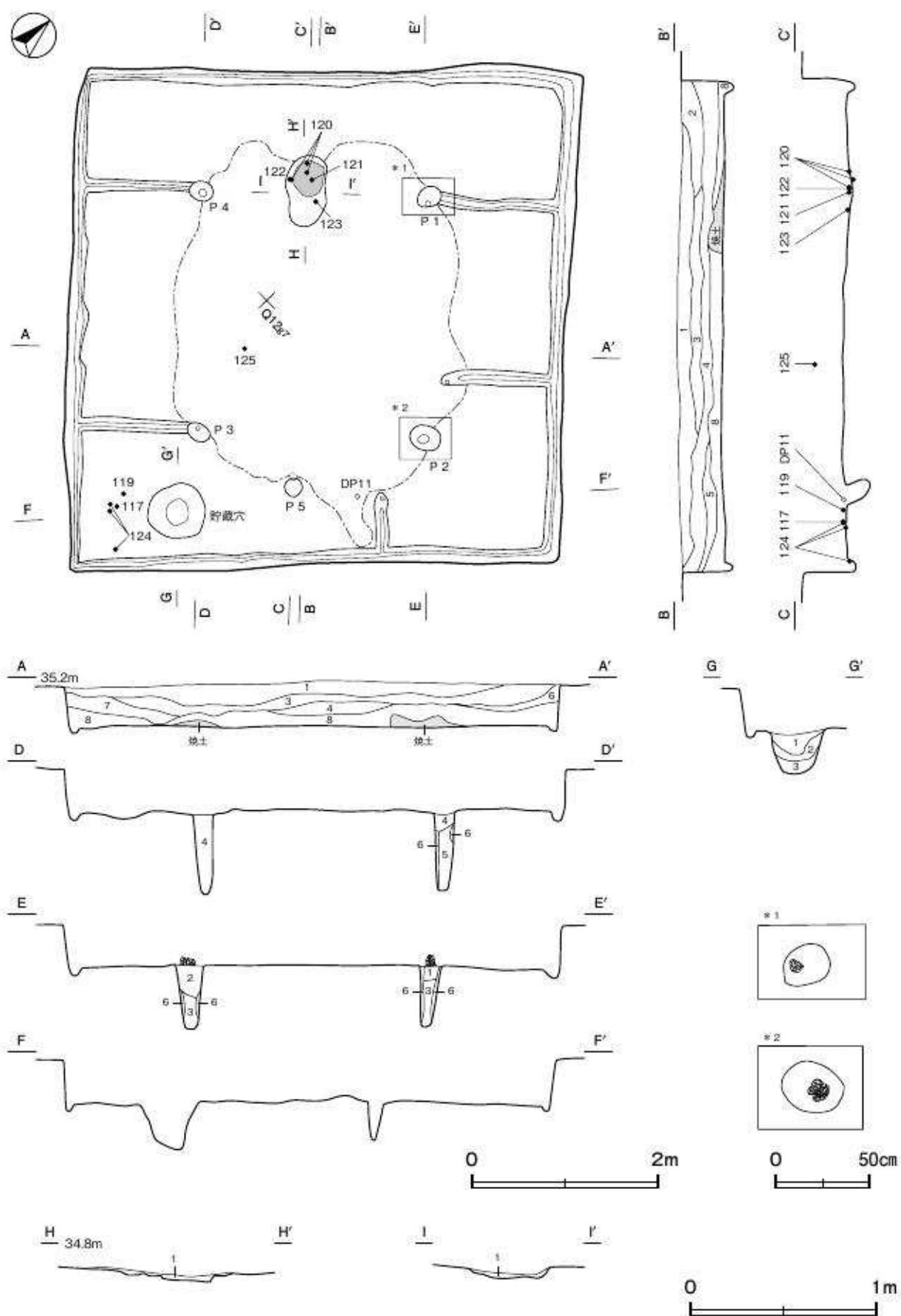
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量

7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

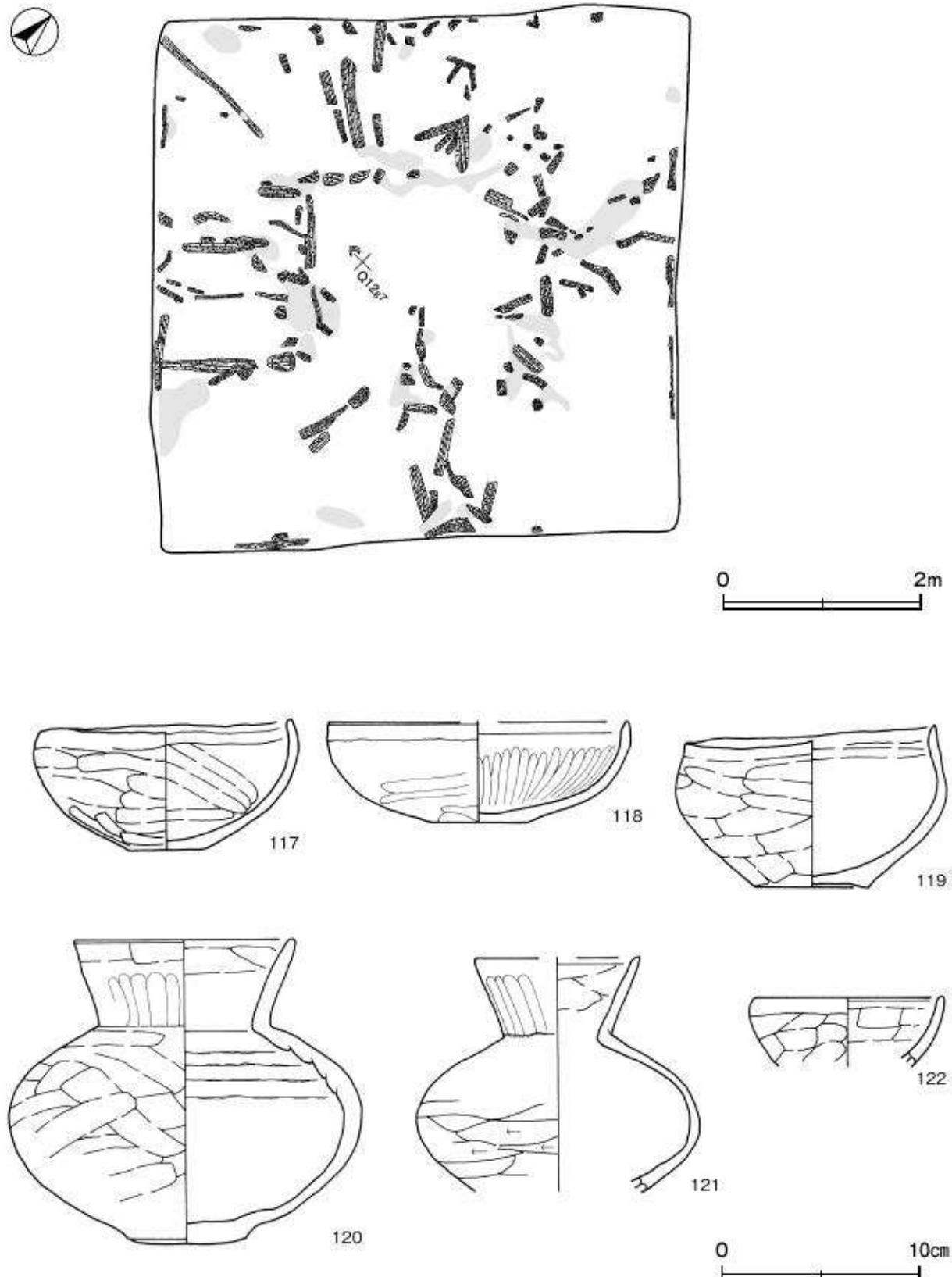
8 暗褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片24点（壺4、椀1、塙2、壺1、甕類16）、須恵器片1点（甕類）、土製品1点（土玉）、自然遺物（炭化種子）のほか、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。120～123は、炉の直上からまとまって出土している。117・119は、南コーナー部の床面から、逆位の状態で並んで出土している。外面が焼けているため、建物が焼失する前に置かれていたものと考えられる。124は、117・119より南側の床面から割れた状態で、DP11は南東壁際の床面からそれぞれ出土している。

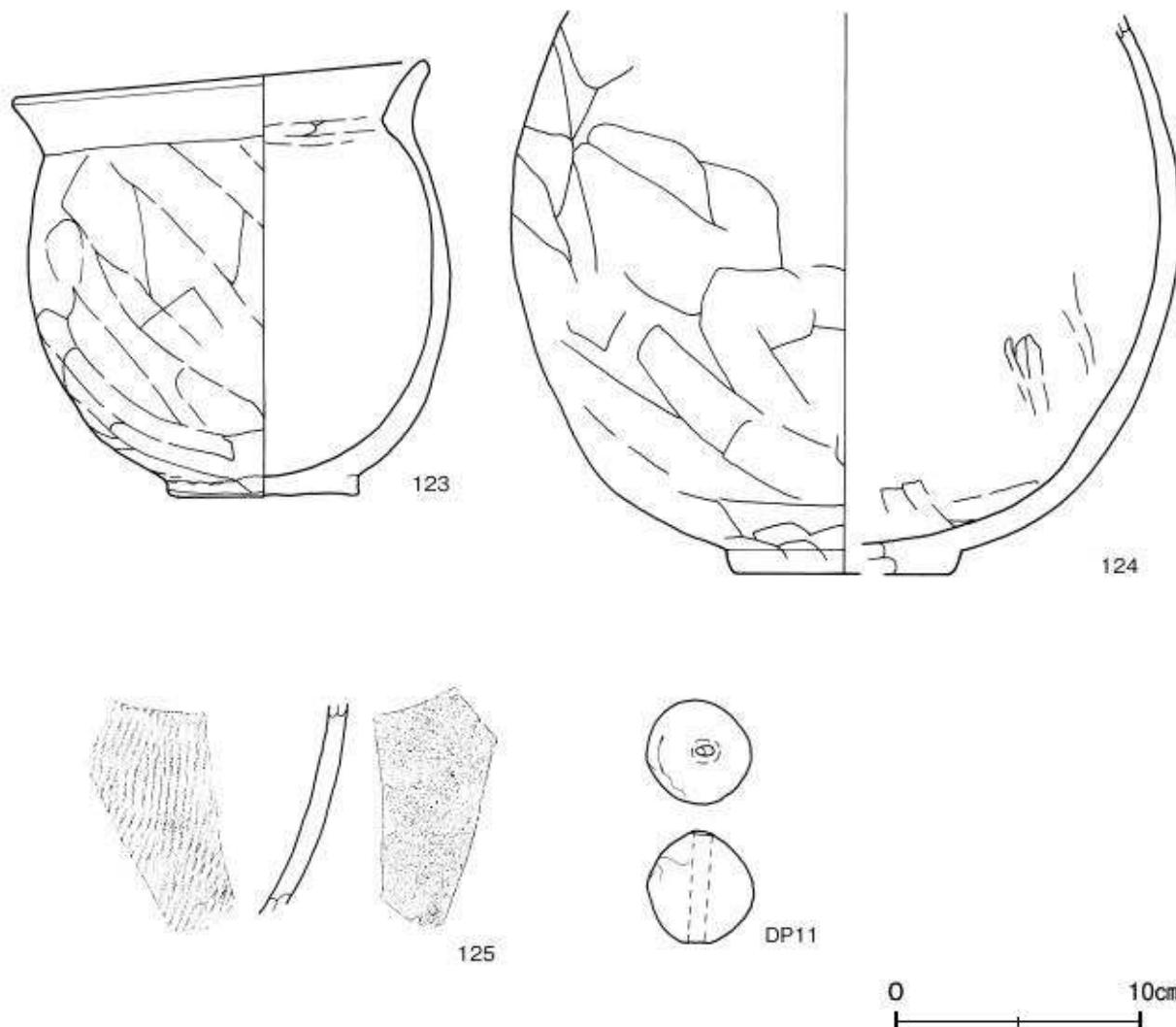


第71図 第32号竪穴建物跡実測図

**所見** 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第72図 第32号竪穴建物跡・出土遺物実測図(1)



第73図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第32号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第72・73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土師器	壺	12.7	6.5	3.9	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面ヘラナデ	床面	100% PL29
118	土師器	壺	[15.2]	5.1	5.0	長石・石英	赤褐	普通	外面横位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ磨き	覆土中	60% PL29
119	土師器	甕	12.7	8.2	5.9	長石・石英	明褐	普通	外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	床面	100% PL30
120	土師器	壺	11.0	15.5	[6.2]	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き 体部外面ヘラナデ	炉直上	70% PL32
121	土師器	壺	[8.2]	(11.9)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部外面縦位のヘラ削り	炉直上	20%
122	土師器	壺	9.5	(3.5)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面ヘラナデ	炉直上	40%
123	土師器	甕	16.8	17.8	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	炉直上	90% PL34
124	土師器	甕	—	(22.9)	[9.0]	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	30%
125	須恵器	甕	—	(8.5)	—	長石	灰黄	良好	外面縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	5% 東海産

番号	器種	種	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP11	土玉	44	4.6	0.7	76.54	長石・石英	にぶい橙	一方向からの穿孔	床面	

### 第33号竪穴建物跡（第74・75図 PL14）

**位置** 調査区南部のR12f4区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 南部のほとんどが調査区域外に延びているため、南北軸は3.13m、東西軸は5.12mしか確認できなかった。方形または長方形と推定され、主軸方向はN-17°-Wである。壁は高さ53cmで、直立している。

**床** 平坦である。確認できた壁下には、幅12~18cm、深さ6cmの壁溝が巡っている。間仕切り溝は1条で、長さ140cmあり、北壁際からP1に延びている。床面からは、炭化材や焼土が全体に散った状態で出土している。

**炉** 北壁寄りに位置している。長径80cm、短径58cmの楕円形で、深さ15cmの地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 褐色 ローム粒子少量

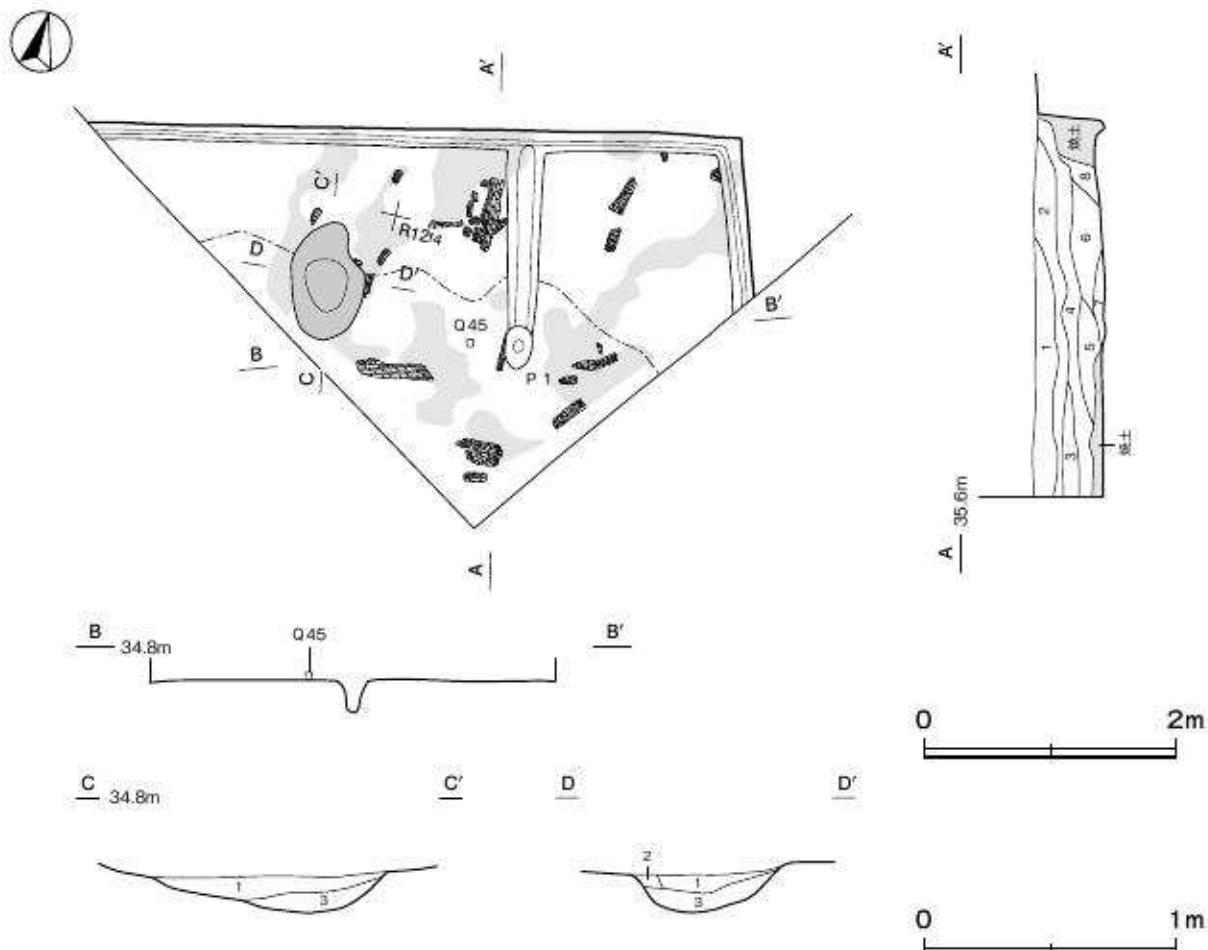
**ピット** 1か所。P1は径32cm、深さ24cmで、位置や規模から補助柱穴と考えられる。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 5 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 暗褐色 烧土粒子中量



第74図 第33号竪穴建物跡実測図